

川柳の雑記

麻生路郎☆主筆



七月號

No. 386

Pensoj flugas trans la land-limon
THE SENRYU ZASSHI

川柳雑誌社主催

川柳まつり

8月本社句会

別雷
室
兼題
ハンカチ
ロングラン

優勝権に挑む川柳コンクール

初心者の方をこの際ぜひ一人でも多く誘って
ご参加ください。なお会場は近代化した冷房
完備を誇っております。

日時 七月十二日(日) 正午開会
会場 大成閣 (電話) 275238と9
南区大宝寺中五丁目二六
心斎橋大丸北ノ辻東五〇米北側

司会

開会の辞
挨拶

兼題 「夕涼み」
「笑い」
「久し振り」
「出直し」

川村好郎
土井文雄
中島生々庵
北川春樹
西尾榮選
市場没食子選
若本多久志選

席題 3題当日発表(各題2句)
*特別課題「親譲り」発表

麻生路郎選

呈賞 *各題天位 *春舉選天位に不朽洞賞

★総合得点二十位まで(同点は先着順) オール

一点計算 ★特別課題優勝者に路郎賞 ★優
勝者所屬の会に優勝権を贈る(優勝権は明年
七月返還、川柳支部、準支部に属しない作家
が優勝した場合は川柳本社の獲得となる)

*余興 ゼスチユア 古方・梅里・豆秋 家

*川柳放談会

閉会の辞

*会費 百五十円(参加者全部に路郎揮毫うちわ

進呈)

*懇親宴 会費三百五十円(同会場)

★投句だけの方は郵券三十円同封(〆切七月十日)

大阪市住吉区万代西五ノ二五

川柳雑誌社

電・住吉 六〇八一

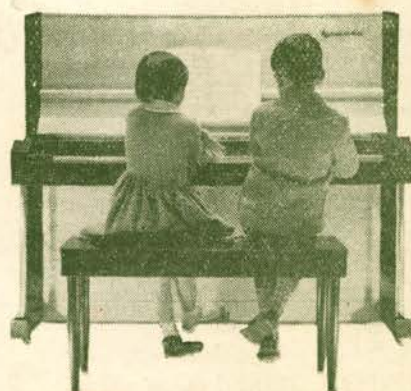
愛情の誇り

ミエやテイサイでなく お子様の豊かな
な心を育てるためにピアノをお選びに
なったほんとうの愛情を誇って頂いて
よいと 思います……………
その愛情にふさわしいように 細かい
部品ひとつにも心を配ったヤマハは
いつまでも狂いの来ない素晴らしい音
色が自慢の 最高のピアノです

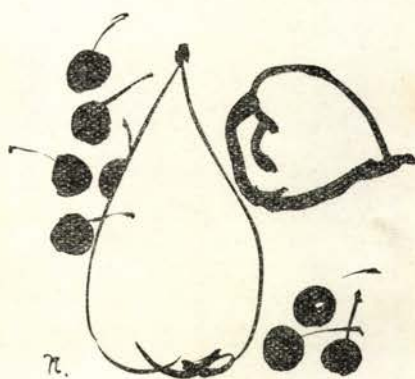
山葉ピアノ
日本楽器

心斎橋 5956~9

梅田 2783



窓 口 談 義

顔に
出るのこ
句に
出る相違

私は近ごろの政治家に
いそをつかしている。それ
で、参院選の時には人相で
選挙することにした。見た
ところ人相では、皮肉
にも、人の嫌がる共産党の
Y氏が一番よかった。それ
でY氏に一票を投じた。し
かしふたをあけて見たらY
氏は落選していた。A氏は
大阪の知事らしい人相をし
ていたが参院選に乗り換え
て美事な当選振りを示し
た。そのうちに参議院の議
員らしい人相に変貌するに
違いないと思うが、矢張り
大阪の知事らしい人相が存

続するとしたら仕事らしい
仕事が出来ないのではな
らうか。
しかし、私は人相学を研
究したことはない。私
の人相というのも写真を見
ての直感に過ぎない。立候
補者の写真を並べての選は
川柳の選と違って、秋雑物
が多いので、ホントの選は
出来ない。人相で選挙する
よりも金を持っているか、
いないかで選挙する方が当
確ではあろうが、そんなバ
カな真似が平気で出来るは
ど、コチラはおりこうでは
ない。

選挙がすんだら見向いて
も呉れないが別に腹も立た
ない。はじめから、そんな
ことは判った話だから。
この次の選挙はどんな目
標で選挙するかが楽しみで
もある。

その段、川柳の選は、そ
の人その人の個性を生かす
ことと、表現技巧の巧拙や
思想等々、いろんな面か
ら選考することが出来るの
で、至難なうちに悔のな
い選が出来て楽しいものだ
がある。

(路郎)

七月号目次

題 字	麻生 路郎
表 紙	野 尻 弘
顔に出るのと 句に出る相違	麻生 路郎 (一)
巧まれない技巧	中島生々庵 (三)
昔の物価	土井 文雄 (四)
用字用語に關す る私見	早川 清生 (三)
柳名句と難句	麻生 路郎 (四)
暴力の街釜ヶ崎点描	西川 晃 (六)
英 一 蝶	阿達 義雄 (八)
四月十日に拾う	戸田 古方 (三)
柳 按 可 迷	東野 大八 (七)
川 雑 踊 り の 歌	(四〇)
句 評 リ レ	多久志・方大・喜由 萊春・麦彦 (四)
雅号由来記	新岡回天子 (三五)
わが天職の句	古方・久米雄・白柳 七面山・光郎・梅里 (二六)
青葉吟行	小沢 史葉 (四〇)
★	
川 柳 塔	麻生路郎選 (六)
同 舟 近 詠	諸 家 (二)
近 作 柳 柳	麻生路郎選 (三〇)
一路集「衛生」	須崎豆秋選 (三六)
「サラリー」	黒川紫雲選 (三七)
金 泥 集	長野井蛙選 (三七)
各地柳壇	麻生渡乃選 (三五)
入門講座	(四一)
研究題「嘘」	戸田 古方 (四)
不朽洞会から	(三九)
柳界展望	(三六)
ペンの散歩	(四〇)



柳川 名句と難句

麻生路郎

〔一〇〕
年寄が好きと女に虚をつかれ

(伍 健)

年寄の多くはジジむさい。だから女にはもてない。年寄の方から云えば、もてようなどとは思っていないから云いたいことを云う。

そこで、女から
「いけすかない人やわ」と、云われる。

ところが、どうしたはずみか、女から
「ワタシ、年寄の方が好きなの」と云われたので、ハッと思ったのである。

いくら好きでももう口説くのが面倒になつてゐる男にとっては全く虚をつかれたかたちである。斯うした機会にロマンズグレイが生れないようでは男の資格がゼロとなるだろう。老人心理をこれほどまでに諷み

こなした老練さに敬服する。

〔一一〕
温泉や座り羅漢に寝る羅漢

(榮)

湯煙りが立ちこめてゐる浴場風景の写生句である。かなり古びた湯槽をとりまいて、座っている人達や寝そべっている人達をながめて、羅漢に見立てたところが面白い。

一般に羅漢さんと云えば、ミイラのようなどからびた骨董品のように思われているから、捜せこけた腰に手拭などを巻きつけた人たちの姿をながめて、おかしみを感じたのであろう。上五の「温泉や」と勿体ぶった表現が、「座り羅漢に寝る羅漢」を浮き立たせるのに効果的であると思う。

羅漢さんと云えば、供養を受ける資格のある人、詰り有徳の人を云うのである。彼

等は人間としての最高精神を獲得し、生活の真意義を表現して時代の先覚者となり、その意味における幸福を庶民に与えた人達なのであるから、決して決してミイラのようなどからびた骨董品的存在ではなく十六羅漢の如きは何れも親尊の弟子で当時のインテリだったのである。

しかし、温泉浴場を詠んだこの句の場合の羅漢さんは、世間一般に考えているミイラのような骨董的な羅漢さんを見る方がユートラスでもあり、妥当だと思う。

〔一二〕
夫婦養子小さな声で喧嘩をし

(素身郎)

養子を詠んだ句はかなり沢山あるが、夫婦養子の句は稀だ。

大たい養子は遠慮勝ちな生活をさせられてゐるし、多くの場合合している。殊に夫婦

養子の場合には必要以上に遠慮勝ちなその日その日を送るものらしい。それはこの句が証明していると云えよう。

夫婦は時に喧嘩をするものだが、その喧嘩すらこの句のように大きい声も出せないとなつてはみじめな話だ。

〔一三〕
悪人が榮えたままで初日果て

(南北)

大正初期の句である。食満南北は初代中村鴈次郎の座付作者であつた。それで、こんな句が生れたのだと思う。当時の歌舞伎はまだまだ勧善懲惡の流れを汲んでいたのだから「悪人が榮えたままで」がよく利いてゐる。私は初日の芝居を観たことがないので芝居通に聞いてみた。今でも初日は脚本の終りまでやらないそうであるから、この句の穿ちは今でも生きてゐると云つていい。

〔一四〕
ガス利用自殺も科学に後れざる

(十 哲)

昔なら木死したり、首を吊つたりするところを近ごろの自殺はガスの管を口にくわえて眠るように死んでゆく。科学万能の世の中を「科学に後れざる」と皮肉。たのである。

〔一五〕

集金に泰然自若観世流

(一 念)

集金が来ても無い金は払えないので、泰然自若として謡いをうたっていたと云うのであろう。

観世流は能の一流派であつて、シテ方、太鼓方、小鼓方があり、シテ方は大和猿樂の四座の結崎家の系である。流祖は観阿弥清次で二代の世阿弥元清に至つて大成したのである。代々徳川幕府の指南役で、謡い方は五流中もっとも優美繊細である。

集金にも泰然自若として動じないところを見ると、貧乏に徹しているのである。

〔一六〕

アコデオンのよう鼻紙を開け閉

じし

(夜 潮)

二つ折れにした白紙を懷ろにして鼻汁を拭くのに使っていたのは明治の風習だと思ふが、今でも地方では行なっているらしい。尤も地方にしても、和服を着た老人でないとやらないだろう。

この句は二つ折れの鼻紙を開けたり閉じたりするさまが、何んとなくアコデオンを開けたり閉じたりするのに似ているのに、フトおかしみを感じたのである。比喩法の句として面白い。

洋楽器のうちでも、アコデオオン

Accedion などは、バイオリンやハーモニカなどに次いで一般に知られているので解説の必要はないと思うが、ごく簡単に述べ

べておこう。

アコデオオンは小型の有絃送風楽器で、伸縮する蛇腹のふいごを操作し、真鍮のリードを鳴らして演奏する手風琴のことである。軽音楽に適するようである。

〔一七〕

家柄を言うて浪人まださず気

(六 花)

浪人はもと流浪者の意だが、武家時代以後、主家の祿に離れた浪士を浪人と云つた。しかし、この句の場合は高等学校を出て大学への入試にすべつて、次期の入学試験を待っている閑の学生を浪人とか白線浪人とか呼んでいるのである。

句意は浪人している学生自身よりも、親の虚栄心を諷んだものである。

「二度や三度、すべつたからと言つて、私学へやれるか。うちの家柄から言つても、東大を出なければいけない。おじいさんも、お父さんも東大を出たんだからな」とまだまだ浪人をさす気だというのである。本人のアタマの問題は別にして、まだまだこうした親がかなり存在するのを諷したのである。

〔一八〕

実篤のカボチャ一つの値にたまげ

(麦太楼)

物価の安い時分に、鴈の描いた雀一羽が二千円もすると言つて驚いたもんだ。

それから見たら、実篤のカボチャが何千円したからと言つて別に驚くには当たらないが、八百屋に転がっているカボチャが百円もしないのと思ひくらべてビックリしたのであろう。

昭和三十三年の「川柳雑誌」一月号に、私は

武者小路の画なんか俺にも描けそうた

という散文的な句を発表している。私だけではなく、少し画の描ける人なら誰でも思うだろうと思うほど、下手な画のようだが、それでいて真似の出来ない画なので親しみが湧くのである。しかも私たちの脳裡にはひよこいがんだ筆ぶとの字で実篤と書かれたサインが印象づけられている。そして実篤の画は売ろうとしないから売れる標本見たいなものだと私は思っている。芸術に生きる尊とさがそこにあるのではなからうか。

本を手にする人なら実篤の名を知らない人はないであろうが、簡単に紹介しておこう。

武者小路実篤。作家。明治十八年に東京都に生れた。明治三十九年学習院高等科卒。東大社会学科に学んだが、同四十年中退。同四十三年志賀直哉等と「白樺」を発行。昭和四年にはじめて国画会展に「千家元麿氏肖像」他二点を描いて出品。十二月には神田神保町に美術の店「日向堂」を作っ

たりして美術への傾倒ぶりを示している。昭和十一年四月航路渡欧し、同年十二月アメリカをへて帰国。翌年芸術院会員に推された。昭和二十一年三月に貴族院議員に勅選されたが、七月末、芸術院会員と併せて辞任。二十六年に文化勲章をさすけられた。その間発表した多くの小説、戯曲、随筆は「武者小路実篤全集」に収められている。明治末葉にトルストイに傾倒、やがて個性尊重主義に移り、楽天的人生観を以て人類愛・人道主義を主唱し白樺派の方向を決定。素朴簡明な文体に独自性を示した。また後期印象派の美術を移入し、紹介し、自らも画を描いた。

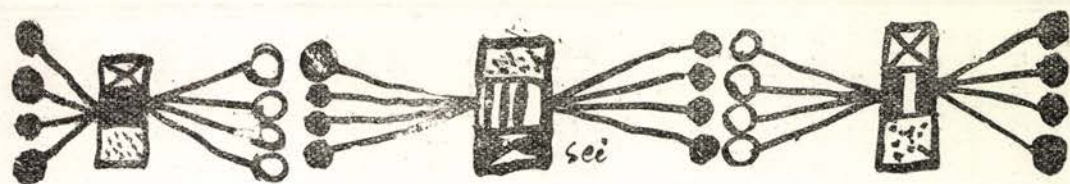
〔一九〕

断つた二次会さそや今頃は

(どんたく)

俺は二次会を断つた。そして真っすぐ家に帰った。妻がうるさいからである。でも俺は恐妻家だとは思っていない。しかし、男にとって二次会はたしかに魅力だな。飲みたため、喋べりたためからである。さぞ今頃はサカンにやっていることだろうと思ふと、帰つても尻がムズムズして落つたかない。

「そんなに、いきたかつたら、もう一ベンいってらっしゃい」と妻が言おうものなら、飛びだしたかも知れないという気持ちで隠じられる句だ。



男一匹夜の女にあなどられ

兵庫県 小西 無鬼

大阪市 太田 良子

初めて飛行機に乗る

大空で三合空けた乗心地

ボツリンと麦田の老婦案山子めき

大阪市 西 いわを

岡山県 直原 七面山

行きつけの酒場はお世辞もう言わず

婦人会自慢話でさようなら

大阪市 須崎 豆秋

赤電話ぐすぐずせんと来んかいな

春の宵選挙演説どころかい

神苑の鶏皇太子とは知らず

ワイマル 羽佐 岡柳 葉

才能がないとは言わず運がない

お堅いと言われて恋もせず老い

奈良県 尾崎 方正

独り旅菜の花たんぼ蓮華草

枕元捜しているは入歯なり

堺市 吉田 圭井 堂

節酒すら中風見舞ったその日だけ

軒切りが一生続くので食えて

甚がたきと言うてもたかが筑同士

防府市 長野 井 蛙

得心がゆくまできけば後回し

蓄める気が知れぬと貧乏人同士

犬でさえプラスにならねば尾を振らず

夫婦じゃないと女將の目が早い

ちよっと痩せたんと違うかとなでられる

二人して飲んだを日記に書く若さ

帰り来ぬ二人をボート屋だけが待ち

生神様のおつと凡夫で世を終り

愛人に抱かれて貧を怖がらず

大阪市 西森 花村

五十五円の映画札束焼いて見せ

春だそうな観光バスは横になり

鳥取市 河村 白満

金が要るからと母の日母が出ず

皆母の背丈を越えて育てられ

育つ子の話がはずむ母と母

宮城へ母は土下座をしそうなり

お燈明母は先祖と話す

豊田市 足立 春雄

娘が育ちアクセサリーのババとなり

男性飼育月給運ぶ丈けのパパ

下関市 石川 侃流 洞

候補から貢いで後援会ができ

倉敷市 木村 千容

盃をおとりめさるとアナウンス

献酬を美俗と信じ切る故郷

子の喧嘩母の割りこむすきもなし

見送りの演出去年の通りする

天皇論こわいお方にするつもり

大阪市 西尾 榮

チト低い鼻でサーピスゆきときき

皇太子さんでもとトントンびようしなり

税務署のハガキもむない飯にする

西宮市 若本 多久志

老い先きが短かいさかい恋もする

逢うまでが嬉しいのんといみじくも

鷹揚に五十路の恋は金が要り

貴方だけ貴方だけよも聞き飽きて

三亀松のように女女よう言わず

倅せを信じて茲に女生き

大阪市 正本 水客

天井をにらんで派手な粉な薬

引越した先を通天閣から探し

大阪市 丸尾 潮花

お茶席へ青葉の影がのびて来る



倉敷市 田垣方大

自宅バー来い来い来いと若社長

月見草話題の切れたのを救い

シャッターへ襟かき合わすおばあちゃん

貴女なしで生きてゆけると倦怠期

加賀市 野村味平

張り合つて結局どちらも嫁き遅れ

笑われた無学が村の篤農家

大阪市 木村水堂

ランドセル皮膚の黒さを気にしてず

懲捨ててしまえば味気ない世間

中座から泣いて笑うて妻戻り

高槻市 福田丁路

お互に公明選挙路みにじり

敬遠と知るや知らずや御老体

大阪市 真鍋一瓢

母の日

おんぶするかたちに出来た母の背

あまり楽しい人生じゃなし頬がこけ

儲け話となりけりしやくり止まって米

大阪市 後藤梅志

請負師拍車のついた靴を履き

呼鈴はあるがちよつくら開けぬなり

鉄兜おお親分のなれの果て

保釈金掏ってくるまで借りて来る

米子市 小西雄々

水虫は軍靴以来のくされ緑

癌病んでいたに交通事故で死に

大阪市 吾郷玲人

脱稿にテレビへ笑う久し振り

パトカーのタイヤがきしむ西成区

大阪市 山川阿茶

神父様三腹九人の子沢山

メーデーの鉢巻ストと又ちがい

大阪市 金井文秋

あげ足を取られて母は笑いこけ

笑い声出して立読み顔見られ

世に慣れて先手は打たず策に乗り

逃げ腰を封じふうじで香具師しゃべり

小松市 伊藤茶仏

世話好きのお人好しでも名を知られ

眉唾の話を女得意そう

加賀市 那谷光郎

酔うて来た嘘は前にも言った嘘

叱られてしよげる方に髭があり

仏には活けた残りの屑の花

大阪市 北川春華

手乗り文鳥親も知らずに育てられ

遺産目当てと誰にもわかる後妻来る

末っ娘のパレー夫婦で見に出かけ

篠山句会にて

一どきに山の名聞いてみな忘れ

日氏東京へ栄転

栄転は大阪弁で押し通し

岡山市 浜田久米雄

当選の顔がゆがんだように見え

ざりざりに起きて新婚気をもませ

洗濯にまで新婚のにおいして

岡山市 逸見灯竿

山緑小鳥囀る中の恋

選挙戦終った空を鯉およう

大阪市 清水南柳

親分の浪曲趣味を心得る

医者の子のうがいする子はやせている

口紅うすくわが路を行く四十すぎ

大阪市 武部香林

押売りへ黒い眼鏡をかけて出る

患者へもそろばん玉へも如才なし

反省も知らずボスの子ボスになり

出雲市 尼緑之助

酒と薬と酒と薬と後悔と

出雲大社拝殿完工

日本一ずくめでこれも御神徳

巫子今日は本気な鈴で舞い了り

完工祭神を恐れぬカメラ陣

大阪市 水谷竹莊

惚れたのはどっちが先きと倦怠期

柳井市 弘津柳慶



月光仮面が又宿題で叱られる

温泉へ着くなり牌をかきまぜる

スパイクを買ってやったに補欠とは

トランジスター聞き聞き社長決裁し

鳥取市 杉谷 湖山

形見分け遠いところから苦情が出

脱線しようとして汽車に委せた身

財産を分けてやったら寄りつかず

鼻拭いてやったあの娘も兄を背負い

京都市 大鶴 喜山

嫁き遅れあたしや葉かげに咲いた花

いやな客紅でもつけてこましたろ

世帯しず恋人で行く術もあり

わが宿のさいわいに馴れあきたらず

故里はよし緑葉の下に墓

尼崎市 小林 文月

町内会長さまが騰写刷り

野球放送騰写刷る手を一寸停め

奈良県 西辻 竹青

その昔思ひ出さすも奈良の街

呉市 林野 甍光

共倒れする迄前の店と競り

そないにもろてもいいのかとおんない

南瓜の花活けられようとは知らざりき

岡山県 福島 鉄児

別室へ寝かせる程に子は育ち

背広着て掻手する癖まだ抜けず

岡山市 服部 十九平

老らくの恋石段で腰をのし

みささぎで直線道路がカーブする

尼崎市 長谷川 三司

ひとり住む女の部屋のヒヤシンス

寝ころべば額縁少し歪んで居

熊本市 有働 菜春

云うなれば送りバントで当選し

よく稼ぐ連れ込み宿の赤い靴

新聞と入れ違ひに出る勤めにて

デラックスの釣具地震の子がかかり

逢引きの電話か壳が赤うなり

倉敷市 水谷 谷水

税務署員管轄で飲む抜かりなさ

後家とおす気かは知らぬがあげすけな

倉敷市 相原 一善

筆不精逢えばこんなに喋べる人

もう少し禿てもほしい地位になり

借りる時は薄情だとは云わなんだ

岡山県 田村 藤波

落選の残念賞もない候補

丹精の花を気安う頂戴ね

岡山県 岡田 夜潮

衣裳負けしたと気付いて近寄らず

じ首を見せて樟脳売りに来る

玉島市 白井 三林坊

ひとり旅月の砂漠をくちずさむ

押しの一手楽屋へ迄もねばりに来

茨木市 下山 清潮

生き抜くに御役所まかせてどうなるう

新緑を求めて親子水入らず

岡山県 本田 恵二朗

お見限りねえと待ってたように云い

京都市 松川 杜的

分譲地へ工場の煙まともなり

敷けかわしおみこし様がストで来ず

背番号なら内の子に聞きなさい

松原市 小池 しげお

おばあちゃんにもチト叱られる男の子

ぼんぼんへ又医者が来た鯉のぼり

尼崎市 藤井 春日

側近派私腹を肥やすほか知らず

邪魔になるものじゃ無かろと恵まれる

岡山市 津田 麦太楼

バラ生けて初夏の座敷を開け放ち

さかさくらげのネオン青葉の雨の中

吹田市 橋本 幸男

車窓から戦争疎開の村が見え

堺市 高崎 雄声



丸木橋内気な方がよけて待ち

待つことも馴れて人間角がとれ

宮仕えハイハイハイで日を過し

岸和田市 高橋操子

遠足の買物街を子と歩るく

島根県 藤井明朗

歳不感精力剤の眼について

岡山県 永松東岸

職安へ職をたのんでパチンコ屋

又選挙かいなと酒屋はくそ笑み

妾宅の何不足なく茶を習い

倉敷市 野田素身郎

逆光線すごい美人に妻がみえ

席譲るのがてれくさい世とはなり

葬列がのどかに進む春の土堤

故郷は山奥なれど母おわす

言訳けを考えている終列車

大阪市 清水望峰

小言だけ聞かして日曜出てしま

大阪市 木村十悟

二十坪都計いびつにして残し

当選で先生になりめしやなり

大阪市 伊達堰子

お父ちゃん持って死ぬ気やなど迫り

親切な受付耳が遠いらし

大阪市 不二田一三夫

文章座「寿式三番町」を観る

踊ってる人形は汗をふき出さず

時間外ですと女中は起きてこず

妻だからニセのダイヤを差してくれ

兵庫県 酒井ひか平

落ちやばって山を坊主になさる

ウイスキー孤独楽しみながら飲み

町議選夫婦別れもしかねまじ

大阪府 深見雅堂

新世帯なれど電化は進んどり

五百株世界を論じ社をけなし

子は寝たかこれからキッスあるテレビ

中学生我家の歴史気に入らず

宇部市 津秋六花

自家用へもう当選がそり返えり

ブラカード先生格を下げに出る

神戸市 野村初甫

病欠を訪えばやっぱり胸だった

パレードの馬馬花形とも知らず

大都会の人目へ手錠はめられる

岡山県 池田古心

内助の功趣味も嗜好も皆禁じ

大阪府 早川清生

奥の院知らずに帰る花の客

バカヤロと書きに投票所へ出かけ

弔歌すぐ作れと記者が待つ電話

堺市辻 圭水

万才のネタにもなった御成婚

迷信の思えど神主祝詞あげ

うれしさを顔いっぱいに出す若さ

加賀市 中松恒雄

月賦又月賦重し石のよう

大阪市 児島与呂志

夜勤明けセールスマンに起される

気にかかるペンペン草もよう抜かず

岡山県 野々口美舟

茶碗まで割るやきもちを止めもせず

肥取りと言えず衛生課に勤め

おおらかにして愛情がまだつづき

西宮市 小浜牧人

麦笛の少年と逢い風薫る

秋田犬デリヤ如きへ目もくれず

色街で会った日傘は風呂帰り

簾を買う姿此の頃落ち目とか

大阪市 菱田満秋

働きものの蟻は結局蟻で死に

報復のつもりか女離籍せず

春はもう女を素足にさせている

兵庫県 前川左文字

自家用車妻の玩具に買った夢

大阪市 橋高薫風子

独身の机の上の磯じまん



今日あたり風鈴吊らん陶泓忌

下関市 中村九呂平

漫画読むだけの老眼とは云わず

奈良市 宮口笛生

ぜいたくに育ててしまふ孫一人

違反せにや損損選挙面白く

大阪市 池戸桃村

裏長屋昔は税金いらぬとこ

大阪市 西川晃

顔一面カンバスにして美の創造

馬の脚として芸道の苦心談

エロ本と思たか句帖覗きこみ

釜ヶ崎風景

死んだるのん違うんかと蹴って見る

盗人が減ると食えない奴が居り

かまってる(入獄)間に他人のスケ(情婦)にちろ

鳥取県 田中蛙眠子

ニヒルな眼選挙参謀向きでなし

一筆必殺そんな記者で耐を酌む

会計監査へ剛腹が通せない

丸刈になっても女給誘惑し

名古屋市 野田一念

雨の洩る屋根の下にも夢がある

政見に拍手したのはサクラなり

岡山市 林葵丘

天気予報あたるものかと釣仕度

防犯へもすこし欲しい常夜灯

神戸市 仲 どんたく

一豊の妻やとへそくりまきあげる

赤ん坊やった子がパーティへ誘いに米

候補者のスピーカーへ市場負けて居ず

平田市 久家代仕男

蒲団でも敷けと金策から婦り

機械化の音が自慢の小百姓

大阪市 本多柳志

重湯でも喰べてみるワと喜ばせ

美しくなりたい飯を又減らし

分譲地まむしの事は書いてなし

出雲市 原 独仙

まだ期待もつには早いランドセル

田舎バス挨拶する間待つて居り

バンガローで寝たと娘の悪びれず

大阪市 大谷 月都

おむつ洗ってた手でラムネ抜いて呉れ

岡山市 江国 幽谷

会長と云う人間へ反対し

麦の穂を四五本活けて自然主義

岡山市 光 好陽子

花吹雪オールドミスが溜息し

投げ出した足はばからぬ程ドライ

気味悪いほど母の日にいたわれ

尼崎市 徳永 鬼美

月給へまたやんわりと釘をさし

熱帯魚意識せぬまま美くしい

西宮市 河相すゝむ

鷹揚にかまえ船場の生れなり

床柱背にして定年淋しがり

西宮市 野呂 鶴江

遊蕩のその美しい手が自慢

実権は妻が握った停年後

西宮市 樋口 舟遊

姉さんと呼んでる淡い淡い恋

新潟県 高野 むじな

先生もお悔み習うて来た言葉

世話好きが居て新社員有難し

恋してる人へ冷たい女同士

高砂市 吉原 紅月

飛鮎の名所斗竜灘にて

飛鮎の鱗五月の陽をはじき

人間の弱さ他人をこきおろし

大阪市 岸川 漣

一票は息子まかせの手を曳かれ

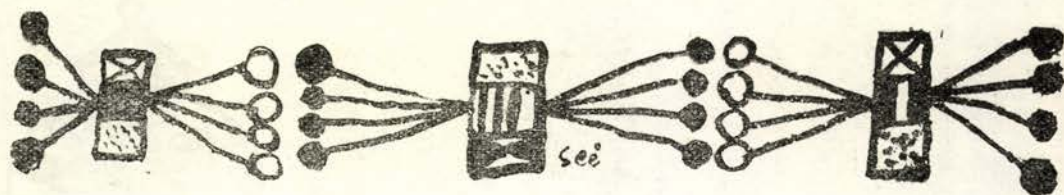
町会でさえ学歴がものをいい

としよりの抵抗近所へふれ廻り

大阪市 欄 蘭

天皇を寝ころんで見るテレビジョン

バスガイド息子の嫁にと思ただけ



消防手交替してからあくびをし

大阪市 石倉 旅風

靴磨きさせて気分がちょっとしやれ

味褒めたとたんにわかめの石を噛み

大阪市 魚住 満潮

大の字に女房の留守を寝ころべり

中の島越えて風船消えてゆき

堺市 田中 狂二

盲判押すのに威厳忘れない

娘と散歩今宵もコーヒーおごらされ

大阪府 林 昌男

容貌が母に似て来て適齡期

息抜きの帰郷を酒に引き出され

愛媛県 村上 旭童

バイバイをさせて実家へいてしま

船に酔いバスにも酔うてついでくる

倉吉市 大前 鳴光

栄転の椅子は故郷を引き離し

金の要る会合なので風邪にする

尻に敷く女同士の声高に

鳥取市 北村 三歩

いまさらに金の力に眼をみはり

参議院選挙

一家五票組織の内へ読み込まれ

神戸市 傍島 静馬

へたなりに板についてる経本書き

車中吟酔うてたんやととほけとき

笠岡市 木山 遠二

末座から精悍なのが反対し

百姓へ嫁かぬ気で居り茶のけいこ

悪筆に六十年も悩まされ

大阪市 村山 光輪

嵐山ロケにて

嵐山時代の色になる河原

大阪市 平沢 保美

幼稚園ママが通っているような

邪魔くさし慶弔電報打つときな

姫路市 植村 客遊子

退職金利に利をうませ長屋に居

春雨をたつた一人でぬれて行く

篠山にて

六万石豊かにみのりデツカンショ

岡山市 宗高 矢寸志

現実には厳し自炊も嫌になり

名を附けるのが住職のアルバイト

大阪市 河井 庸佑

大仏はほこりにまみれ座し給い

ずぶぬれになっても遠足楽しそう

大阪市 小島 さぎす

一票をいやな宗教から乞われ

石川県 同村 虹要

万場一致決定居眠りしてる間に

週刊誌あわれお尻に敷かれたり

同舟近詠

松山市 前田 伍健

漫画刷れして又かいと岸首相

恥などはおき忘れしてもめる世か

店舗改装ジャンパーの若主人

須坂市 高峰 柳児

寡婦若く生活の底をねらわれる

浮動票に読まれて頭下げられる

公傷でよかった怪我を見舞われる

和歌山市 秋月 宏方

僕にまだマイクつきつけてはくれず

一面に似顔載るよな友もなく

大洲市 米沢 晩明

組合の話になって立つ社長

反対を叫んだだけで否決され

欲得でないからズバリ物がいい

今治市 月原 宵明

鯉轢せがまず父は勤め人

この次は貴方のためにいる喪服

喧嘩して里へ帰るにいた化粧



巧まれない技巧

中島生々庵

先月のこの本社句会で古方さんが、吾は唯、足を知るのみと云う文句をお話の冒頭に持って来て、実に立派な柳話をなさって下さいました。路郎先生はこの古方さんのお話を評して、今晚の柳話は口演そのままが活字にしても一つの美文であるとか激賞なさいました。その後先生は僅かばかり時間があるので一言と前おきなさいまして「君達も、もう少し技巧と云うものを勉強せねばいかん。ここに云う技巧と云うのは技巧に駄した技巧を云うのではない。巧まれない技巧、技巧でない技巧を修めねばならない」と云う意味のお訓しを頂いたのであります。私は日頃から常に頭から離れないこの問題に就いて特に図星を指された様な感じで胸が痛くなりました。

本社の句会では本社の旗印である「いのちある句をつくれ」を三唱して散会するのが恒例となつて居りますが、この「いのちある

句」こそは巧まない技巧の中からでないとい絶対に生れて来ない事を私は何時も痛感して居るのであります。路郎先生や腹乃先生の句は格外と致しまして「三人」とか「ふるさと」とかの大先輩の句集を拝見して見ましても、作者の筆線にふれる、心から打たれる句と云うものを味って居りますと、その殆どのすべてが技巧でない技巧による力強さと云うものをしみてみ気付かせて頂くのであります。とほけたような豆秋さんの句であっても、小道具を手際よく読みこなしていると思われる水客さんの句であってもそうした事実を次から次に発見し得るのであります。

「巧まない巧み」と云う事は、とりもなおさず豆秋そのものの、水客そのものが素描として遺憾なく現われている事を意味するものでありまして、私が豆秋さんの句に感心したり、水客さんの句を羨んだりするのでなくして、豆秋と云う、水客と云う人間そのものに川柳人のすばらしさを感じるのであります。こうした事はただに川柳だけに限った事ではなく、私達の卑近な日常生活の中におきましても、至高の芸術であり、宗教であり、教育であるためには、その人の人間そのものすばりが巧まれない姿で私達に迫って来るのでなくしてはならないのであります。「巧まれない技巧」そこには到底私のような凡人には近寄り難い雲の上の峯、貫き得ない厚い壁である事を身を以て感ずるのであります。永久に滅びない「いのち」が如何に緑遠く至難なものであるかと気付いた時に私は限りない悩みと、あこがれが相錯綜して私を苦しめさいなむのをどうする事も出来ません。

私には或実業家の話を聞きました。金は儲けようと思つては儲けられないものだ。儲けようと思つてない時に儲かるものだと言つています。或は私の短かい経験から申しましても、開業術のうまい人が必ずしも流行医にはならない。ぶつから棒のお世辞一つ云えない山家の猿が案外流行して居る医者も沢山いるのであります。

ところが纏つて考えて見ますと私達の周囲にはこの「巧まれた技巧」がなんと多い事でありまして。否寧ろこの「巧まれた技巧」なくしては一日として安全な世渡りが出来ないような感じさえ湧いて来る場合が往々にして体験せられるところでありまして。そしてこの「巧まれた技巧」をうまく巧んで己れ一人うまくしてやつたりとしている人間も私達の身近かに案外沢山あります。而も御自分だけはしてやつたりとすまして居るその技巧の巧まれ方が、はたから見ますと、存外お粗末な破れ簞で、折角芸術家と讃示し、政治家と自称し、宗教家と高くとまつている人達のかくれ簞が実は噴飯もので正視に耐えないぐいも亦教え切らぬ程にあって、ますます私達のくらしを複雑にしこんがらがして来るのであります。

一面切羽つまつて、溺れるもの薬をもつかむ式の技巧の中には少々叙すべき点がある場合もありまして。例えば入学試験や病氣の際、神仏への加護を祈り、選挙の時に皆様の厚き御同情におすがり申す、その姿は或は笑えない技巧でもありましよう。

私は医者を日々の生業とするものであります。素人の患者さんならともかく同じ友人の医者仲間とさえ、日頃は牛飲馬食、不養生の限りをつくして居る御仁が、長命の術とか若返りの方法とか何かうまいきめてあるかのように真剣に深く求めているのがあります。が全くのナンセンスものであります。労働をすれば疲労と云う現象があり、歳を重ねて行けば老衰と云う症状が出来るのが当然すぎる程の当然であるのです。勿論現在の世の中は六十や七十になつたからと云つて御隠居様ときめ込むわけには参りません。単に外見が若々しく見るとか、老ぼれていないとかだけではすまされないので、ほんとうに逞しく長生きして、要りきつた生活をこそ今日の社会は要求しているのであります。その間の消息を物語るのかのように商売を逞しくして現われているのが高血圧の薬とかホルモン剤とか肝臓や心臓の薬とかであります。商売人の商魂だけでなく厚生省あたりの社会保障の問題等もこの辺から世論を大いに高めているのであります。が、こうした個人的にも社会的にも「巧まれた技巧」が徹底して行つてそれが効果あるものとすれば世の中は永遠の青年ばかりになつて死ぬ事を忘れてしまい、葬儀屋さん連盟はハシロ旗を立てて中ノ島公園で生活権擁護を絶叫す

る場面も展開されようと云うものでしょうが、大自然の流れの中の因果の大法則は厳然として存在するものでありまして、己れの都合のいいようにばかり組み易くは出来ていないのであります。

皆様も御存じのように最近では整形外科と云う医学が大変進んで参りました。皆様の御身近かにもお耳に入りお目に止まるいろいろの事実も少なくないと思いますが、私は毎年正月を或る温泉宿で迎えるのであります。その宿の女中が今年には顔を見せない。どうした事かと尋ねて見ますと女将声をひそめて曰く「隆鼻術で失敗してお座敷に出られないんですよ」と云う。よくよく聞いて見ると隆鼻術そのものは特に術者が自慢するようには如何にも恰好も整い、ノーズルな秀でた鼻に於ては難の打ちどころがない。然しどうした事か手術した後、顔を見る人毎に笑ひ出し終うし、本人も鏡に映る自分の顔に涙ぐんで終うようになつた。云うなれば田舎の野趣豊かな茅葺の百姓家の入口にコンクリートの大門を作りつけたような感じでは如何にしても見て頂く顔の感じではないと云う事でありませう。決して不美人と云う顔でもなく寧ろ皆から大褒賞された顔であつたのに取り返えしの付かぬ事になりましたと女将もしきりにくやんでおりました。巧まざる自然の調和と云うものが、ヘチャはヘチャな

りに尊く魅力的である事を示す一つの例であります。

たまたま私がこの原稿を書いております途中私の三男で高校一年生の、探偵物やスリルものにくわしいのが私に云いました。いろいろ難かしい犯人逮捕があるが、完全犯罪と云うものは大抵の場合なりたない。犯人が捕えられる率から云えば計画的な完全犯罪よりも、行きずりに偶然やつた犯罪の方が証拠の残り方も少く従つて犯人の捕えられる率も低い事実があると云います。科学的に注意周到に完全犯罪を計画してもその技巧のどこかに破綻の糸口がひそんでゐるもので全く無計画無技巧の犯罪が却つて証拠も少ないと云うのです。天網恢恢疎にして漏らさずの天の網目も「巧まれない技巧」の方が通り抜け易いと云う意味になります。

然し私達の世の中と云うものは前に申し上げました通り「巧まれない技巧」も時によつてはどうしても必要な事があります。例えばお芽出度い席ではつとめて不吉な言葉を出さないとか、悲しみの場では余り賑やかな表現はつしむとか、従つて服装のようなものもそれぞれ注意深くするとか、こうした事は当然のエチケットであります。又人様のお子さんの鼻が少々低うてあぐらかいていてもお宅のお子さんの鼻は天上むいてあぐらかいていますなあと云うよう

な欠点には無難にふれる事なしに外の美点を指してお丈夫そうです。ねとかお利好そうです。ねとかこの位の御愛想は仮りに心の中ではおかしく思つていても必要な事で必しも親馬鹿に對してばかりのお世辞ではないと思ひます。然しそれが少しあぐらになつて何か目的あつてのお世辞になつてくるとへつらいと云う醜い鼻つまみものとなつて大いに警戒を要する事にもなるのであります。

計画的に技巧に技巧をつみ重ねて行つて、而もその技巧によつて自分の利得のみを目的とするものに偽物、贋物、にせものと云う奴があります。寔に言語同断ではあります。古今東西を通じてこの贋物が広く深く世にはびこつております。事実は実になげかわしい事の限りであります。私の知つてゐる贋物に就いての二三のお話を申し上げます。

画の方では文晁とか華山とかの偽作が最も有名だそうですが、或る人が計算して見ると文晁も華山でも、今世の中に真物として認められてゐるものだけで五百年位本人が長生きして描かなければ描き切れな程残つてゐるそうでありませう。又赤穂義士の遺物と称せられるものを集めると五六百人の義士が必要であり大石良雄の筆蹟になると三四十人の大石がいなければ勘定が合はぬそうでありませう。その外キリストの遺骨や仏教

国の仏舎利のようなものも合算すると百数十人のキリスト何百人の仏が出来る事になるそうでありませう。又或る偽作技術に勝れた男が北齊の画を一枚持つていて何度も何度も贋作しては売つてしまつたが段々上手になつて自分乍ら真物と見違ふ程に巧みになつて来て最後に自分が描いた贋物のつもりでうっかり真物を売つて終つたと云う笑話もあります。又川端玉章と云う人は有名な藍作の大家だつた

そうですが或人が先生のように濫作されては後世先生の真価が疑われますよと忠告したところが「大丈夫だよ。拙いものは後世の人達がこれは贋物だとして取り扱つて呉れるよ」とすまして云つたそうでありませう。

ともかく神社仏閣の縁起物とか、世の中一般に尊く貴重なものとして評価されてゐるものとかの十中八九は真物であるか、マヤカシ物であるかの区別が不明

であるとか云う事になりませう。と、世界の歴史と云うものまでがあまりしくなつて来る気さえるのであります。

今から百年もすると路郎先生のお書き

になった短冊とか、色紙とかの偽作が現れて来る可能性もあるわけでありませうが、有難い事にはたとえ先生の筆勢は後世如何に巧みに真似る者が出来ようと、幾多御発表になつてゐる数々の玉句と云うものは永久に「いのち」を失う事なく、否、歳を重ねると共にその光りを増してゆく事を思い出す時に身のひきしまる感じに打たれるものであります。

私達先生の門下として川柳に精進する者、不肖とは云え一生の間になたとえ一句でも先生の御意に添うような「いのち」ある句を作りたいものですがその念願を実現するためには、付け焼刃でない、ほんとうの自分と云うものを作り上げ、そこらにしみ出る「巧まれない技巧」と云う方向に努力修練する以外に道はない事を痛感するものであります。

御贈答に

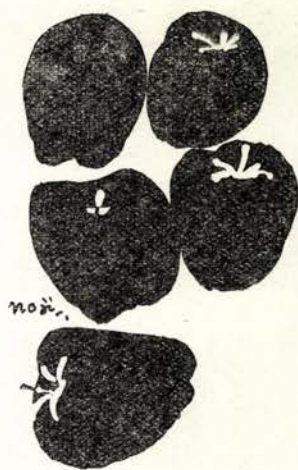
大丸の商品券

大丸心斎橋

三百円・一万円

京都、神三田の他
高知、鳥取、下関、
別子、博多に共通
一階 御堂筋側

句評リレー



兵庫縣 金敷市 京都府 熊本市 熊本市

若本多久志
田垣方大
大鶴喜由
有働萊春
田口麦彦

(上)

多久志氏提出 (近作柳樽二月号)

どっちでもええと大きい方
を取り

古句に、「泣き年らよい方を取る形見わけ」と云うのがあるが、これはその現代版、何でもない事をすらすらとまとめた処にうまさがあり、人間の潜在意欲を鋭く穿っている。然も古句に見るあくどさが無い。

麦彦—確かに人間誰しもが持つ醜い面をうがつという点では成功している。だが残念なことにこの句には救いが無い。

醜いものを引き出して批判するのは大いに結構であるが、句の底を流れる作者の愛情とか、人間性といったものが何としても欲しい

気がする。ただそれを実際にどのようなに表現するか、ということになると、なかなか難かしいが……
萊春—さらりと流したい句！そして、ピリッと舌の先に残る川柳の味。古句の現代版にしては一寸物足らなさを感ずる。我々は「どっちでもええ」と体裁のいい事を云って、ちゃっかり大きい方をとる人達の多いのを知っている。私もその一人で、うまく皮肉られたものである。「どっちでもええ」が生命だな。

成長させてゆく処に大きな愛情があると認めたのです。そしてこの句は「ええ」の二字の句意の鑑みのわりに句全体をやわらかくしていると同時に人物の性格も浮き出させています。もしこれが「よい」とか「いい」だったら「ごつこつしたのになつてしまします」。
喜由—戦時中隣組の配給で悪い方が手近かに、良い方が奥の方に並べてあったが奥の方へは教養が邪魔して手が延ばせなかった。この句はそれと反対に大きい方を取っている。説明句を生かすには技巧とか内容とかを充分検討せぬと救い難いものになる。着想も表現もいいが古い気がする。

多久志—古いという点については同想の古句を引例した通りだが、古い句想でも巧みに表現されれば又別の味が出るのではなからうか。方大氏の評は適切だと思えます。
麦彦—方大さんのおっしゃることよく分ります。たしかに私の解釈はそういう意味では狭いでしょう。ですが、何かこう批判のしっぱなしでやりきれないという気持ち—それにそういった古句と同じ想でも巧みに表現されれば拍手して上げなければならぬのだからということ、つまり現代の川柳がこの程度の境地で甘んじていてもいいのだろうかという疑問があるとを絶たないのです。

谷内六郎さんが絵を描くことは、踊りに一生懸命になったり、大工さんが家を建てるのと同様に祈りであるといっておられました。が、私は川柳もそうではないかと思っているのです。
萊春—古いと云うことには、句想の古さと表現形式の古さがあるかと思われるが、句想の古さ新しさ等は、やはり相当な柳歴を経て自ずから分って来るものであると思う。新しく川柳に足を踏み入れて現在精進をつづけている作家は恐らく、川柳入門書をひらき、或は柳樽を読み、翻って現代川柳を読んでみる。従って自分の句想が嘗て先人によって詠み古されたものになりがちなのは、川柳が人情の機微をつく文学である以上致し方ない過程ではないかと思う。多久志氏の説の如く、表現の新しさでは又違った味わいを持った句になると思われる。麦彦氏の「巧みに表現されれば拍手して上げねばならないのだろうか」との疑問に敢えて拍手して上げるべきである。と答えたい。只表現形式の古さだけは脱皮して貰いたい。しかしこれも一概に言い切ることは至難である。
方大—どうもこの句評では麦彦さんにつかかるようですが、多久志さんもこの句を、最善のものとして推薦しておられる訳ではない、他の句との比較に於いて、素材の組合せの巧さによって句意を生かしている処をキヤッチして、提出されたものと思われまます。「現代川柳がこの程度の境地で甘んじていてもいいのだろうか」と言ってしまうのは、まだまだ早いのではないでしょう。

喜由—句想の古さと表現の古さと

年

福壽司

心斎橋筋大丸前
電話の三四四番

ある場合これを生かすものは新味ある表現を必要とすると思う。この句は愛情に直結してないだけに心からのほほ笑みを感じられない損がある。

多志志—いろいろな御批判ごもつともですが、兎に角こういう句は入門二、三年の方か、或は既に柳歴拾数年のベテランかの作品であつて、私はその後者とみて、「軽味」の作風に打たれ提出した訳です。

多志志氏提出（近作柳歴二月号）

微分より女心はややこしい

青風

新進作家青風君の成長振りは素晴らしい。この句、女心を微分に結びつけたあたりの巧しさに敬服する。しかも下五の平易さが句を生かしている。

麦彦—新しい表現法を開拓しようとする作者の意欲はうかがわれるのだが、私は必ずしも多志志氏の御意見に同調出来ない。

「微分より」というのが作者の云わんとするところであり、またこの句のポイントとでもいうべきものであるが、いささか理に陥った感があるという点、それと「微分」「女心」というものが元来ややこしいものとして観念づけられているために、二つを対比させても余り強く迫って来ないという点でこの句は少し弱いと考える。

葉春—微分を見つけた作者の眼を讃えたい。女心は随分と今まで詠みつくされてきているがこの句を詠んだ瞬間やはり新鮮な作風を感じ楽しい。殊に女で苦労した果報者には、よう分る筈だ。

方大—素材の組合せは確かにすぐれていて新鮮さを感じます。「微分」で人物やその年令を浮き出させているあたり、なかなかの手腕ですが、こうした句意のものは受取る人によって非常に差の出ている句です。

喜由—この説明は微分で救われている。女心はと女心のどっちがいいか研究したい、女は身近から恋するとか、女の肉體は心と共に行動するとかなど共通以外に女同士でさえ心を読みかねることが多い。作者は高いところから勝手に想像させている。

多志志—「女心は」と「女心の」の問題は、調子だけなら後者であるがこの場合、元句の通りで句意を強くしている様です。

麦彦—「微分」たしかに新しいみつけには違いありません。欲を云えばそれをもう一步発展させて「ややこしい」という心理描写をある一点にしばって見せて頂いたらとも思うのですが……私が川柳という一七音字の詩型に余り多くを望みすぎるのかも知れません。葉春—多志志氏の意見に同感です。

方大—「微分」と「女心」を比較対照する場合の字句として「女心は」の方がよい。「は」は「女心の方」の三字に匹敵する簡潔な字である。「女心の」ではやはり弱く感じる。又「は」の方が平易であり、調子もそんなに悪くない。

喜由—麦彦さんの御説に同感です。もっと心理を狭く深く詠んで第三者に成程女心はややこしいと感歎させて欲しいものだ。

多志志—最後に提出者として申上げたことは、柳歴三三年でこの作風に到達された句主の精進ぶりに驚くと共に、自分の不勉強を反省し乍らこれを提出した訳です。幸に諸兄の御批評が一叩の鞭となつて新人作家を更に向上させて頂ける事を慶ぶ次第です。

葉春氏提出（川柳塔新年号）

覚えてはりまつかと膳を越えてくる

水客

日本間のかなり広い座敷の宴席で、もうそろそろ酒が廻り座が崩れ初める頃の一瞬。先刻から「どうもあの人がらしい」と自分の前方の御面相をチビチビやり乍ら、その横顔、話し振りを等たしかめていたが間違ひなく某氏であると見定め、勃然と再会の（恐らく五年振るか十年振りの相当久しい間の）なつかしさ親しさが湧き上り、その瞬間にはもう立ち上つて

膳を越えて終っているのはえましいクロツキーが活写されている。後吟と敬服します。愚妻は「芸妓はん」と主張するが僕はあくまで男性であると主張して譲らず対峙しています。水客氏の軍配に従いますが、男性か女性で「覚えて来る」の意味も変ると思います。

麦彦—私は葉春さんの男性説にあえて反対し、奥さんの「芸妓はん」説に断然賛成いたします。特に「覚えてはりまつか」という言葉のニュアンスから芸妓はんであることが最もふさわしいような気がするのです。

男性としては単なる社交上のおつきあいでのゆきすりの対面であつたとしても、芸妓の女ごころを

引き出すようなことが絶対ないとはいえない。芸妓という職業の位置と男性共通のエゴイズムとが意識的に感じられて、小説や映画の一場面を想像させられる。

こう考えてみると「覚えてはりまつか」の一語はまさに千鈞の重みをもつてのしかかっているようである。

方大—これはいい句です。「膳を越えてくる」だけで、日本間、宴会、久しぶり、友情の厚さ、がぱっと出てくる、新年号をあけた時すぐチエツクした句です。「覚えてくる」で私は男性と思います。「膳を押しける」でしたら女性にもあてはまりますが、どうもこの句は昨年の不朽洞会総会の席上キヤ

若本多志志編 麻生路郎序

川柳親ごころ子心

定価 150円
送料 24円

偽り多い世の中に、親が子と思い、子は又親を想う至情こそ真実一路のものと言えるだろう。編者がその愛見を喪った悩みを川柳に転嫁して以来二十数年、「川柳雑誌」の川柳塔及び近作柳歴の中から、親ごころ子心を詠った秀句を多年に亘って根気よく拾い蒐めたのが本書である。登載された柳人三百余名、集句二千余は親と子の愛情が如何に深いものであるかを知ることの出来る、実に有意義な書である。柳友諸氏の座右にお薦めしたい。

新刊

発行所 川柳雑誌社

大阪市住吉区万代西五の二五
振替大阪七五〇五〇番

ツチされたのではないかと私は想像しています。

喜由—川柳には理屈は禁物だといふがこんな句になると究めねばじめがつかぬ、作者が芸妓だと云うても僕は男と解したい。なぜなら脳を越すのは横を越してもいいがサービスの女としてあり得ないことだ。はりまっかが女性的だと感じてはならない、方言としていやはりまっか、はりまっか、いたりまっか、いててか、等が文字になる場合ははりまっかとなるだろう。

多志志—勿論これは男性でしょう。長編をひいた芸者なら高更、仲居でも脳は越えて来ない、「脳をよけてくる」筈、又「はりまっか」の方言については喜由氏の御説通りだが、こういう問題が起るところにも我々は、如何に方言の用い方が慎重を要するかということとを教えられるます。

然しこの句は宴会に取材した数多い句の中で着想の妙、秀逸です。麦彦—私は一寸考え過ぎて孟が（身体ではなく）脳をハッパんで差し出されるという様にとりましたので、これはどうもカブトを脱がざるを得ないようです。

榮春—愚妻に鼻高々と「どうだい！やはり男だったろう」と今一寸得意になった所です。関西方面在住の喜由氏並びに多志志氏の方言についての男性論で溜飲は下が

りましたが方言についての安易な受取り方を指摘されて作句上ブラスになったことを感謝したい。

方大—前評でも申しましたが、組合せが巧いとこんなに内容の豊富な生きた句が生れる。こういう句を熟読断味すると、川柳ならではの感が深い。

喜由—こんな破調の場合腦をのを抜いた方がリズムもよく行動も生きてくるような気がする。

多志志—さあ、「を」の問題は、方言の発音速度アクセントで上九が八音になるから破調とは言いつけないのではないかと思う、但しこれも関西地方の方だけにわかって頂けることで、或は無理かもしれない。

○ 喜由氏提出（近作柳樽新年号）

鶏ばらす指にきらめくニカラット

この句は好きでもない、嫌いでもない、何か印象に残るので取上げて見た。

ばらす、きらめく、ニカラットと強い調子が重っている。内容はむごさやさしさの対照で、新妻の指としたら献立のため止むを得ない、小料理屋の女としたら稼ぐために仕方がない。要は今すこしやわらかい言い廻しでおなじ内容が出ないものか知ら。

麦彦—ホームドラマに心を搏たれながらも、推理小説の非情な頭悩

的な描写にも魅せられる——というのには誰しもあり得ることである。つまり人情句に心を暖められながら、こういう句にも惹かれるのは徹底した非情の底に脈打つ人間性のためではなからうか。

その意味で喜由氏がこの句を提出された意図がよく了解出来る。ただ少し意地悪く云えば下五「ニカラット」でも「五カラット」でもいいじゃないか……というところになって数字を使う場合の難かしが残されている。

榮春—アブストラクトの生け花を見ている様で何かのあせりを覚える。作者の意図がどうも分りかねる。紅の血—白魚の指—きらりと光る宝石—そうだな、これをたぐってゆくと女の宿命がのぞけそうだけど！

方大—古句に「ぬかみそへ思い切る手の美くしさ」というのがあり痛々しさと、哀れさと、少しユーモア的に「もったいない」という感じがしますが、これとは対照的な句だと思います。ちよつとドギツク、ドライですね、然しこの句はダイヤの指輪をはめた手で鶏を料理するような、ありえないような状態を詠んだ処に現代のある断面に於ける人物の心理をえぐっているとは思いませんか。美音子さんは私と同支部の女流作家で毎月顔を合せますので、フィクションかどうかとも確め、よく話合ってみた

いと思います。

喜由—この句を持ち出して美音子さんは迷惑しているかもしれない、しかしあなたが非情とは思ってない、むしろ非情をとらえた着想をはめたい、何故ならよかれ悪しかれ現代の世相に添うているからです。川柳も人間味を希っている

が時代と離れては置き去りにされる、現代の若い者の川柳同好者が減りつつあることは句と若い人の気持とずれがあるのではなからうか。

多志志—どう味ってもこれは頂けない。フィクションの句が陥り易い誤ちを指摘するとニカラットぐらいのダイヤが（多分ダイヤだろう）果してそんなにきらめくものだろうか、若し作者の狙いの様にきらめかねばこの句の生命はゼロになる。

句会の選をしていると—短時間のも—よくこんな句にうっかり引掛って抜いてしまうこともあるが、兎に角技巧が強過ぎてあくどい作品だと思えます。

麦彦—私はこの句が好きだとか嫌いだとかいうのでなしに感覚的にドライなものを纏んでいるとみましたが……

榮春—この句の上中下の「ら」のリズミカルな流れがその鮮烈な内容とマッチしていることに何か不可思議な牽引力があるけど、作者も何か訴えてはいるが作者自身分

らないのではないだろうか——そう云う事は詩の世界ではあり得ると思う。

方大—対照物の差を大きくすればする程、効果的になるのは、立志伝なんかで、小僧より大会社の社

総合ビタミン剤
強力
パンビタン
30錠・100錠
はかにミネラル入
強力パンビタンM

長へ、というようなの効果があらるように、この句も「ばらす」の対照に、ダイヤを持つてきてコントラストの効果を狙ったものと思える。ただ「ばらす」というのが非常にドギツイので、読む人の詩情に脅威をあたえているのは否定出来ない。

喜由—提出者としてきたんなく評されて満足です。初心者も益するところが多いと思う。



柳按可迷

東野 大八

英国の大作家クロニンは「人間の死はヒューズのとんだ電気と同じだ」と悟り、長患いの床で人間様を一個の物体としか取扱わない医者にあきて、静養の手すさびに小説を書いたが根柢からモノにならない。がっかりしていると近所のお百姓の一人が「わしやあボンクラで土を掘じくり返すことしか知らねえ、そのため毎日毎日土いじりする、そうしなくちゃあその日が終わったという気がしません、おかげで土くれ一つみても此奴はどんな種子に向くかが判るようになりまして」この一言でクロニンは大作家になったそうだ。

川柳もこのコッパだと誰でも大作家になれるような気がする。

記者稼業に入ると、まず第一巻のお小言は、記事が長すぎる、ということだ。大東亜戦争ボツ堯の意義と過程を長々と書いて、タバコの紙を五百匁寄付した人の記事を書いた男は即日広告部へ、

僕の好きな江戸小咄の一つにこんなものがある。

バクチに負けてすっ裸になった亭主が、ハナ水ですすりあげてわが家に帰って横になったがどうも寒くて仕様がなない。「おいいかあ、何か掛けるものはねえか」に不貞寝の山の神即座にいわく「鴨居にタギがあるだらう。」

洋服の下着をやっている知人が税金滞納でものの見事に空家にされた。差押えの際残つたのが裏板のとれた親ゆすりの大きい帳ダンスだけ。立退きの追打ちをかけてきたあこぎな家主に対し、彼はこのボロタンスを背にヤケ酒。ラチが明かないニラミ合いに家主つい場つなぎにこう言ってしまった。

「錆金具だらけのこのタンス一体いつごろのものでなんというタンスだ」彼即座に答えていわく「レジスタンスだ。」

川柳でいえば本格派である。

おつき合いで時折バヤやお座敷へ行く。初対面の男と女は、こんなふんいきの中にいると初手の話は難である。「こちらさんおいくつ」「あててみな」「そうね、ハタチ一才」「ウフフ、まあ一パイのみな、だけどキミ、わしやこんなにおつむが薄いんだぜ、一体どうしてそんなに若くみえる」「ボ、柄でなくっておっしゃるんことがよ」「？」

「ホウ、なかなかイカすじやあないか君」「もうおばあちゃんよ、でもいくつにみえて?」「さあてね、うつむきやばはたち、ああむきあ三十、向うで笑えば十五、六ってとこだな」「ホントはネ、勉強してスッピンなの」「スッピンという四十かい、冗談じやない、どうみたって三十そこそこ」「ありがと、かけ値が多いほどで若くおつしやって頂いてマスノ」非詩派のベテランかくの通りという二名答。

フランス映画は平気でスードの情痴シーンを撮りあげる。アメリカさんの方はそうはいかない。ベッドシーンだってベッドはシングルと定めている。好いて好かれたお二人をなせ二つのベッドに仕分けしなくちゃあならないのか、その考え方が分別くさくって太くさい。最近日本でも、映画や文学面にもわいせつに対する抑圧が厳しい傾向にある。その適法は刑法百七十五条だそうだが、これが明治何年かに出来たしろもので「みだりに性慾を刺激し、みにくい感じを与えるものはいかん」という風になっっている。問題は「みだりに」というところで、判事諸君が困るのは、みだりに書かれたものであるか、それとも必然性があるもののされたものであるかの境界だらう。ヴァンデンバルデの性書

が後者の解釈に立っての見解がとられてゐるのなら、カマーストラ性典も宗教的必然性を裏付けているのだから発禁に処しなくつてもよさそうに思える。

戦後、岐阜で検挙された「新釈末摘花」の裁判で、被告の某がこういったそうである。

「女房を女と考へ、夫婦の営みをイヤらしいと考へるところにオカしい問題が出てくる。裁判長や検事さんにも奥さんや子供さんがあつてしょう。その普通のことを川柳にしたのが何が悪い。」と開き直ったが、検事は答えたそうである。

「いくら夫婦でも人前でおおびらな営みが君にはできるとみえるね」

と答えたそうだ。チャタレイと末摘花に潜む人間性がみだりに露出したところと法の威厳が発生したわけだが、佐藤春夫はこういつてゐる。「すべての芸術家にとつては、人間お手盛りの律法や世の良風美俗などと称するものは、すべて低俗な人間同志のご都合を伺い合った上での約束であつて、神にかなうものでもないのだから、敢て少しも守るに足りない」といつてゐる。明けっ放しの人間性が「みだりに」発揮されると罪になるといふ話の一考察。

低俗な末摘花も溢じつめると學術的な一考察の資料となり得るといふ例。



英一蝶

阿達義雄

英一蝶は元禄時代の人間であって、化政時代から見ると、既に時代物的な人物であり、おまけに遠島になった原因と年については、色々と伝聞があつて、何れを真とすべきか迷わざるを得ない。然し、川柳・狂句の解釈は事実の究明によつてのみ行われるものでもなく、殊に詠史的な川柳の解釈に於ては、俗伝の理解ということが大切である。事実の考究が川柳の解釈に役立つのは、作者が其の当時のことを見たままに句を詠んだ場合である。

然し、事実を或る程度、考えてみることは、句解に役立つばかりでなく、江戸社会を知り、その風俗を理解する為に頗る意義あることと言わねばならない。川柳の研究領域は、其の文芸面に比して、社会面が非常に広い。この点是他の文芸作品と大いに異なる処である。川柳の解釈すること、それ自身が江戸社会の研究となり、風俗人情の

研究ともなる。ただその解釈を文学的鑑賞の手段に止める様では、川柳の持つ特殊の価値を放棄するものである。余談はさてとして、英一蝶の事蹟を『筠庭雜錄』『一蝶流謫考』『墨水消夏録』によつて調べてみるに、三書とも夫々異つたことを記している。三書共に記事の合致する点は、流された島は三宅島であることと、歿年が享保九年の七十三歳であること位である。

遠島になった原因については、『百女物語』の書物を出したからとする説が最も有力である。

一蝶、本姓は多賀。承応元年振州に生る父は多賀伯庵といふ医者也。寛文六年十五歳の時、江戸に下り、面を好みて、狩野安信を師とす。名は信香といふ。剃髪してより潮湖と称す。後一家をなせり。書を佐々木玄竜に学び、俳諧を嗜みて芭蕉にしたる。翠蓑翁、牛丸、時雲、旧草堂、隣松庵、隣露庵、北翁翁等の称あり。

性胆勇なれども、母につかへて孝あり。嶋より帰て其面ますく世に行はる。嶋に流されしは元禄六年十二月八日、三宅嶋へ流さる。この時、本銀町三丁目、村田半兵衛、本石町四丁目仏師民部三人、百人女薦といふ書物一冊、本屋摺出しぬ。これは諸大名方奥方器量の善悪、又食物の好不好、其品々を明白に書きたり。よりて詮議の上、右三人遠嶋となる。宝永六年に大赦にあひ、帰国せり。嶋に居る間も、面を母に贈りて、衣食小遣に充てしとなり。

一蝶母の名を妙壽といふ。一蝶謫せられて後は、其の友人横谷宗現輪物町の宅に養はる云々(『墨水消夏録』巻の三)

(一) 英一蝶と淺妻船

俗伝によると、元禄十一年に、英一蝶は朝妻船の絵を描いて、將軍綱吉の淫乱を諷刺したので遂に遠島の刑に処せられたことになつて居り、川柳に詠まれてゐるのも、専ら之に拠つてゐる様である。この俗説は、天和前後に、將軍綱吉が愛妾お伝の方と、吹上の泉水で、船中の遊樂を事としたという話と英一蝶の書いた鳥帽子・水干の遊女が船に乗っている、所謂、一蝶の淺妻船の絵とを結びつけることによつて生じたものであらう。この淺妻船の絵には、『あだし仇浪云々』の歌の後に「英一蝶」と署名されている。英一蝶は遠島から赦免された後の名前であ

色紙短冊
書畫用品

大坂戎屋

丹精堂

を申せしめ

る。遠島の原因になつた絵を、赦免後も画き続けるということは不合理であるから、淺妻船の絵は一蝶の遠島の原因ではあり得ないことは明らかであらう。但し、江戸川柳はそんなことを穿鑿してゐるものではない。面白可笑しく句にすれば、それで事足りるのである。元来、淺妻船は、昔琵琶湖東岸の坂田郡朝妻で、遊女の乗つていた船で、江戸時代の船頭(船を職場とする三十二文の私娼)の船に似てゐたらしい。

淺妻に似たが三十二文なり (二九)
淺妻の船で男を乗せはじめ (八〇)
しめつづめるめつ朝つまの舟のうち (九〇)
(一六四)

などの句は之を語るものであり、それだからこそ、淺妻船の絵は諷刺的に考

えられ易いのである。俗説によって作られた句には、

朝妻の鹿相 蝶船に乗り (一一一)

一蝶が落度我が身も船に乗り (二四八)

蝶一ツ花に浮世を跡となし (二〇六)

浅妻の舟にはうかと乗給ひ (一一七)

「乗給ひ」とあるから、「のり給ひ」で、將軍のことを言ったのかも

知れないが、川柳子は將軍だけに、

恐れて諷刺することを遠慮したもので

あることを考えると、「のせ給ひ」と

読ませて、一蝶が浅妻を描いて、將軍

やお伝の方を描き、舟に乗せたという

のであろうか。然し、何れにしても將

軍に關係するから、大分危険な句であ

る。又、この浅妻船を船頭の船に擬

したものとすると、益々以大変な句

となる。之では、この作者が三宅島へ

流されそう。尤も大尾句だから、危

険を孕みながらも、船晦している句の

こと、当時の役人などには意味がよく

分らなかったであろう。

尚、英一蝶の浅妻船の絵を見ると、

烏帽子・水干の女のの前には、鼓の様な

ものが置かれてあり、船は柳の下に位

している故、次の句も、一蝶の浅妻船

に關係ある句ではないかと思う。余り

はつきりしないが、参考の為に附記し

てみる。

朝妻が羯鼓のばちに散るやなぎ(一五八)

○「かつ」は「鼓」の古字

浅妻の船も柳の一ト葉なり (一〇二)

○「浅妻」は「浅妻」の古字

宵く朝妻通ふ柳かげ (七六)

浅妻の舟から鶯鶯へ指をさし (八五)

後の二句は船頭の句とも考えられぬ

こともない。

(二) 島干物と島一蝶

英一蝶關係の句に、島干物という句

が、『柳多留』に散見する。又、英一

蝶の字を句にしたのには、

英もしはれて嶋に一ツ蝶 (二四七)

多賀信香が英を名乗ったのは、母方の

姓の花房によったものと言われている。

愈々、一蝶が三宅島に流される

時、友人や門弟に向って「彼の島の産

物に塩麴があるから、江戸に其の干物

が屢々届くと思うが、若し其の干物の

中に、笹の葉を口に挟んだものがあつ

たなら、この一蝶が猶其処で命を永ら

えているものと思つて呉れ。」と言つ

て出発したと伝えられている。島では

一蝶も馴れない干物作りなどして、

嶋干物名画の出来る指でさき (二一六)

島干物残せし妻思ひ出し (二〇〇)

姿さそ肉もやせたる島干物 (二二八)

姿さそ島の便りに干荒布 (二二二)

其の干物でないにせよ、島から着い

た干物と聞けば、誰しも、

誰が夫の業なるらん嶋干もの (一一八)

○「業」は「業」の古字

という感慨がないでもないのだ。まし

て、一蝶の身内の者が之を見た時には

見る胸もさける泪の嶋干物 (一三五)

一トからげ涙のとどく嶋干物 (四二)

儼雲花の土産推の実嶋干物 (二五四)

○「儼雲花」は印度に咲く花で、三千年に一度花を咲かせると言われている。

落ちそうな首も付いてる嶋干物 (一三八)

やがて、母を養う為に島で絵を描い

て江戸へ送ることを許されたので、絵

具も碌々ない三宅島で絵をかくて、嶋

干物などと共に送ったことであろう。

一蝶の便り墨絵と嶋干物 (二三五)

嶋便り哀れ名画の蝶一ツ (二五二)

島で画かれた絵は、島一蝶と言つて珍

重され、これを持った家では、余程勝

手元不如意でない限り、人に売り渡さ

なかったものである。

御不勝手嶋一蝶も置き流し (二五三)

入質したまま、質流れになったことを

詠んだ句。

苦しい寂しい年月を島で送ったが、

宝永六年赦免の報が伝えられた。その

時、彼は佗住居の庭先にいたのであつ

たが、丁度その報を得た時、この貧し

い庭の草花に蝶が一つ来て戯れてい

た。彼は見て、之を奇瑞として喜び、

一蝶と名を改めたのであつた。然し、

永年の流人生活で彼の姿も、

一蝶の帰嶋墨絵のやうな形 (一四三)

○「帰嶋」は「嶋」の古字

宗珉の牡丹下絵は蝶の筆

一蝶の流されていた間、母の妙壽尼

は、友人の金工、横谷宗珉の家に養わ

れていたのであつた。横谷の彫金は、

「宗珉が作れる物、世に名高きが多し、

一輪牡丹は肉を飽くまで高くして、いと

手づよく打出したれば、その高低の間、

地金いたく薄く、花瓣ちぎれなんと、恐

る程なれば、裏より脂をつめて固めた

り。所蔵せる人の用意にや、一具焼がね

の金目貫なり。」

(「鶴屋権録」中巻)

と記されている程だが尚同書には、

「宗珉はじめ宗知といへり。……四十

歳の時(正徳年中)始めて、彫刻の法

一家を立つ。専ら英一蝶が粉本を用

ふ。」ともある。

品質優良

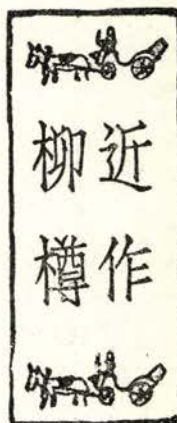
タチカワペン



TACHIKAWA PEN

タチカワペン
タチカワゼム
タチカワ

大塚市東区葛藤町一丁目十一番地
立川ペン先株式会社



麻生路郎選
北川春巢選

私は誰でしょうと電話口若し 玉野市 伊原 明林
高級車の中でラジオは浪花節
大欠伸平気で出来る地位になり
口だけは達者シビンの世話になり
几帳面な頭でいつも平社員
フライパン野菜も肉の音を立て
数学は出来ずスターの名は覚え
鉢巻を締めておっさん今日斗士 兵衛 永断
子の風邪をみんな貰った母の咳
退職金女と切れる梓も組み
パチンコが入り投票時間切れ
日当が高くドス抜く役目とは
予備校をすべり大学には合格り
カン高い声水道がまた濁り 内藤 ささ子
一万円札をくだきに行ったおき 同
一坪へ見本のように生え始め 同
御主人に死なれ妻の穂細くなり 同

ビニールの袋をやぶる糸切歯 同
祝日は休むが旗は立て忘れ 青森市 工藤 甲吉
去年から臥ている腕を見せられる 同
灯がついてウリがメロンになる女 同
夕桜めつきり老けた妻と出る 同
首の運動のつもりのお辞儀する 同
男性の影が薄れて民主主義 熊本市 田口 麦彦
タクシーの割勘が来る月給日 同
生きておれば飲みたき理由多す 同
タクシーの音つづかせて団地族 同
時限爆弾に似た進学の子をかかえ 同
新婚のご感想とは野暮な奴 西宮市 富永 歩路
ない袖を振れと労組に励まされ 同
生い立ちは知らぬが垢抜けした女 同
もう尻に敷かれて帰るハネムーン 同
満員車温泉気分みな忘れ 同
縁談をポニーテイルの先で聞き 豊中市 林 参無子
ひょうたんを植る凡人の楽しさよ 同
バラ植えてバラの姿の君思う 同
通天閣都会の孤独見て帰り 同
忍ぶれど母にデイトをキャブチ 大阪府 谷沢 好祐
改心へ妻に曳かれた神詣で 同
お布施では食えずに幼稚園で食 同
ターミナル美人を待たす人もおり 同
善人の愚痴をお寺で聞いてあげ 奈良市 山内 静水



四月十日に
拾う

戸田古方

人の噂も七十五日、とはいっても、あの日の感激は日がたつても消えるものではないでしょう。九千万という人の中にはいろいろの見方をしていた人もあるでしょうが、近頃の朗報であることは大多数の認めるところであると思います。私も終日テレビにかじりついていて一人ではありますが、そしてテレビを見ながらいろいろ感じたところを、やっと今になってまとめてみる気になりました。神だったんだものお里帰り、もめずらしく、今できた句なんです、有名な井上剣花坊の、咳一つ聞えぬ中を天皇旗の時代から見ると随分かわったものです。その日の放送の見どころといえば、朝六時にはじまる紀殿下、まだ正田美智子さんでしょうが、おうちを出て行かれるところ、それから第一の山ともいうべき賢所の婚儀のこと、そして最大のエピソード、お馬車のパレードだと思えます。



大会場畳の数もメモしとき	同	病氣せにやかまってもら子沢山	同
御近所の不幸へ手伝いおめかしし	同	ゴルフ焼け選挙焼けでと齒が白い	同
修理にも出さず叩けば鳴るラジオ	同	社会科のテストを子供達にされ	杉原 愛場
親切が深入り過ぎて肚がたち	同	おみくじをひいてみるのも花日和	同
追込みへこれが最後という悲鳴	同	この夫婦調停委員も匙をなげ	同
お前らは一票という存在さ	同	世話をしっぱなしで餓別までとられ	同
療養のこわごわ計ってみる軽さ	同	病んでから細く長くの主義にかえ	竹田 さえ
眼に青葉紙の幟は音をたて	上林 粗影	編馬の様に小鳥の麦がうれ	同
お守りをアクセサリーにするも母	同	ワイシヤツを変えればネタづくし	同
愛犬を叱ったら妻返事した	同	街の子へホタル友情使節団	同
バードウィー啼かぬ目を放したろ	同	相談欄他人事乍ら腹が立ち	井上美恵子
裏口がひどいと落ちた子を庇い	大垣たもつ	値切るだけ値切りうち気が弱い	同
螢の光 停年組も去る校舎	同	霧の街詩情と別にあくびする	同
無投票当選売った山が惜し	同	鞭をもて追わるる如く受験の子	同
ジグザグもようやく大人にな	同	全身をハサミに托しカニ怒る	遠山 可住
ビニールバッグ大きく女欲を揚げ	当野 哲悟	オイコラと云うていけないも	同
陽の恵みさえもさえる資本主義	同	非売品出して参院立候補	同
血圧を案じてくれる部下が酌き	同	定年の鎌を持ったらヒゲも生え	同
スピードの違反地蔵の目に余り	同	親馬鹿に先妻の子がしてくれず	関戸宗太郎
本妻の土産二号も板につき	三上 春雄	小娘と恋を張りあうイヤリング	同
脳溢血とは幸運なビリオッド	同	いま着てる方が似合うと我慢させ	同
ガイガーがなくてもわかる君の胸	同	儲け口ならなんぼでも義理をたて	同
麻雀とゴルフのあい間にめくら判	同	貧乏な隣りを規準にして暮し	山本 一傘
粉骨碎身して税金のつまみ食い	安平次弘道	腐るから卵をもろて来た見舞い	同
五月雨に部屋中泳ぐ鯉のほり	同	孟母三遷テレビ写らぬ村に住み	同

私はそのいちいちについて、今述べようとは思いません。十二、三時間も、あの日ならこそ見られたテレビの生放送というものの意味をまずのべてみたいと思うのです。

正田邸前の第一幕ですが、美智子さんが門のところへ出てこられるまでの三、四十分間、玄関を出られてから自動車が出ますまでの十数分間、テレビの眼は時々視野をかえ、視角を改めはしても、かかるだけの時間はつづめうにもつづまりません。賢所大前の第二幕目も、皇太子さま、つづいて美智子さまが貴子を進まれ、外陣に入られてから、十五分乃至二十分、テレビ・アイは一生懸命に間を埋めるために苦心していました。参列の人々の方をむいたり、玉砂利を追ったり、内陣から外陣に着座されると、わずかに見える御二人の顔のあたりを凝視し

こりと痛み
に
サロンパス

久光兄弟株式会社
東京・佐賀・大阪



冬の方がましだと思ふ素ッ裸
あるものはあるで資産税の愚痴 宇都市
百姓が連休と云う雨の空

長女出生 一旬

お隣りの鯉幟が見下げてゐる我が家
落選の顔へ痛々しい陽焼け
寝祭のまつりへ遙々帰って来 豊後県
返す金もう一晚を抱いて寝る

背丈もう三寸欲しいモーニング
子のない家は苦勞の種と知れ

月見草花壇へ咲いて引抜かれ 愛媛県

冗談を妻気の毒な程たまげ

開演中なのに前売券も売り

兵隊の真似すりや笑う世と変り

ブーを聞くだけの工場誘致なる 鳥取県

温い手だなどと妓にとほけられ

嫁がせた娘の体面の身なりで出

麦売った金だとチップ思うまい

出馬したい方は推薦からはずれ 千葉県

又汚職するとは言わぬ再出馬

盛り場の〇時を稼ぎ厚化粧

天引きの二割が僕のマネービル 西宮市

失恋をしてから口紅濃うつけ

御成婚うちの会社も余波をうけ

同

平田 実男

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

責任をとらしておいてそれっきり 兵庫県

ハタキでは取れない程に人形褌せ

紅みんなどれて逢引から帰り

人の飯食えばわかると處をなげ 西宮市

母さんの料理がやはり口に合い

免状も倅せ続き役立てず

泥はねる快感楽しむ運転手 京都府

本年度第一号の敷を逃がし

お隣りの竿の音して雨を知り

スリッパのちんば十田出して借り 足尾市

着る物にまよう倅せ服の数

観光地話の種をつくる駕籠

一坪の庭で見上げる鯉幟 茨城県

連休を畑の草に狩り出され

悪友の来ない雨説に欠伸する

子のためにテレビ買う友買わぬ我 芦屋市

ポケットに菓子皿芦辺踊りはね

同伴はほんとの父娘風薫る

優良ベビーさすが大きな声で泣き 貝塚市

聞き手にもまわって主治医慰める

三度目の結婚殿下にあやかる気

風邪を引くゆとりもなく娘三人 兵庫県

坊さんの予算へはいる年になり

割勘と聞いて飲めないぶんは食い 芦屋市

護川 梢月

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

ヒゲそり後に…

●美容衛生剤G11
●アラントイン
●水溶性ラノリン

配合

男性

200日

ASTORIN

たり、とにかく緊張の連続ですの
で、退屈など勿論しなかったの
ですが、その日の夕方から夜にかけ
て、早速ニュースの時間にその朝
の出来事が再録されて、何度とな
く見せられたのです。私はこの編
集されたニュースを見た時、思わ
ず思ったことは「闇」の貴さとい
うか、十何時間も見つづけたナマ
放送がこの上もなく立派なものに
見えたのです。ニュースが時間的
制約や、最良の編集のための充分
な時間をもたなかったことを考え
ての上ですが、無駄のように思え
た数十分あるいは十数分がどんな
に大切なものか、それあればこそ
充分な雰囲気は伝え得られたと今
さらのように感心されるのでし
た。

映画にしても、劇にしても、又、
文学にしても、省略のないものは
ありません。実生活をそのまま再
現したのでは芸術にはなりません。
パランスを考えながら、細か



包丁の手が名曲にふと止まり

伝票が合わず半どん返上し

奥様の立膝元の線が出る

夜逃げした顔へ錦着た髭をつけ

一生一度人形の美しさ

金持へ住宅公団金を貸し

貧乏に育ち善意が受けとれず

おまえ等がたよりと老父気が弱り

勉強をせいせいと云う父の学

慾のない子供で親は物足らず

財産のない倅で故郷を捨て

セツとした髪をいたわり寝つか

貧乏性端切れで何かまた作り

甥出生

叔母ちゃんにされて祝もはずま

凡人で暮したいとはいいい身分

いささかの寄附で社殿が親しまれ

南無阿弥陀この仏にも磁気バンド

心の暗さを色彩テストされ

二階借り掃除機だけは持つて居り

万年筆二本も持つて書かぬ人

蝶ネクタイ靴音までも嫌なひと

ライフ誌で鈍才かくしたボーイズ

蠅のないお国自慢で帰される

皇室の繁栄祈り右派に生き

同

同

舟木与根一

同

同

松井 可笑

同

同

塚脇 笑太

同

同

宮原 敏子

同

同

石橋万古人

同

同

同

沢田 美喜

同

同

水田 帆船

同

同

内海 敬太

都会にかふれ許嫁捨てたがり

教授の息子で博士の裏を知り

歯車の歯になり切れず左遷され

追われれば四散 智恵子等が持ち

嫁ったのを吊し上げてゐるクラス会

花名刺下戸も貰うて見送られ

手袋のまま握手して見返らず

樟脳の香りすずしくもう単衣

百脚一つに動き舞台 春

失職と知らず丹前羨まれ

子が出る踊りへ招待折り添えて

我が道を行くにけわしい山があり

耕転機のうなりと別に火の車

老妻の字引を夫相つとめ

ざるそばのメニューへ春は追ひ

ミサイルの世に猫化けのスクリーン

セーラーの頃は日焼けを苦にせず

助けると思うて貸せば腹が立ち

退職金目当ての單車乗り廻し

託児所の窓から春の歌がもれ

正直に生きたら腹が立つばかり

珍客が来ては選挙にふれて去に

儲かっていない自転車よく光り

母の日へ孤児は想い出さえ持たず

真直に歩けぬ蟹の子を思い

同

同

宮川 珠笑

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

い計算によって再構成され、強調すべきは強調し、ほかすべきはほかしながら一つの作品を築き上げて行くべきであります。

しかるに、この日のテレビのナマ放送はどんなにあせっても、編集者の意思とは別に主題は決められたスケジュールを一分も狂わせず進むのです。自然、間延びということも起るのですが、その無駄があの日に限ってであるのかもしれない、再びめぐり合うことの出来ない感激を見せてくれたのでした。

ことに、正田邸出発は時間も短かつたので、ニュースでみてもそれ程には思いませんでしたが、賢所ではお二人が外陣に入られたその瞬間に、もうこっちむきに出てこられたのには、禁じられた被





葬式の山はつつじが真盛り

同

議長席狙う工作 抜け目なし

七尾市

松高 秀三

ここからは母さんになる曲りかど

同

老人に席を譲らず宗教誌

大坂市

本村 文福

大手衛の前夜手の爪きってくれ

岡山県

同

若草へ夜露の光るまで話し

同

杉本 たつよ

下戸の座でビールの泡ももうた

同

同

ふところの淋しさを知る百貨店

西宮市

御園生 江

凡人のここもあそこも義理があり

同

同

面影を離さず女化粧する

東京都

板東千代美

産まぬ気で嫁ぎ男をおそれてい

同

同

ドライだと云っても女は泣く手

大坂市

石原 球太

六法が恋人ですとやせがまん

同

同

週刊誌も御土産のうち旅かばん

大坂市

尾来 絵見

日稼ぎが政治をけなす火を開み

同

同

恩給があるので大事にしてる親

同

木山桃仙坊

これで金あればと仲のいい夫婦

同

同

なぎの海さえ恐ろしい山育ち

大坂市

同

終りから頁をくって買うと決め

同

同

肩書のある人ばかりで肩がこり

西宮市

大石 甘美

浪曲を聞き入る母の顔にしわ

同

同

古火鉢片付ただけのうちの春

大坂市

北 七星

実力を知り合った犬の低姿勢

同

同

予備後備出揃い百姓田植する

愛媛県

同

熱帯魚砂一台にも金が必要

青森市

瀬戸凡々子

味噌で食うには惜しい(鯀)の値

同

同

男好きのする顔などとおだてられ

鳥取市

近藤 昭夫

春の陽に妻は陽灼けをもう案じ

同

同

着いたなら起しておくれ春のバス

高知市

須藤 俊江

温泉の話しながらベッドバス

同

同

牌の座は下級社員にリードされ

大坂市

藤富 淀月

物持を賞める遺品のウオルサム

天理市

同

お目出度知らず和服の里帰り

同

坂下 乙美

まないたのくほみで母の苦勞知る

同

同

反対をせぬのへ会長相談し

倉敷市

小倉美音子

きつと来る名もない犬へ食べ残し

同

同

腰弁で何時まで魚に釣られる気

和歌山県

福山 裕子

母の日に踊って見せる一年生

同

同

当局に付けば云うこと変る君

倉敷市

奥谷 弘朗

嬉しさは養女この頃甘え出し

同

同

広告をふやし新聞また値上げ

宇都市

神田 豊年

お祭りも子供の供で気が疲れ

同

同

病人があるらし催促せず帰り

岡山市

横山 一声

兄ちゃんと呼んでツバメを可愛

同

同

空っぽの頭で顔へ気を使い

下関市

藤田 雪峰

店員も欲しい新柄売れてゆき

同

同

横顔を盗み見て成程おばあちゃん

大坂市

西本 保夫

アパートの話を処女が聞きたがり

同

同

写休であったとはいえ、あまりにあつてなく、スーパインボース

の皇太子妃美智子殿下の文字に感

ずる重みもいささかあわただしく

口あんぐりするより外はありませ

んでした。私がこんなことを書いて

みたくなつたのも、ニュースの

その瞬間を見てからでした。

今さら比べることもものの研究

に必要ななと思ひました。又、こ

ういう風にも物を見、ものをいう

のも一種の批評というもののので

しょうが、さらに批評についての

べたい出来事は世紀のバレーの

さ中、お馬車にとびつく乱暴者の

飛び出した時です。勿論ハッとし

ましたし、忘れたように朗らかな

はは笑みをのせて慈なく東宮御

所にお馬車の列が入ってからも、

あの郎籍が心のざわめきとして、

いつまでも残るのをどうすること

もできませんでした。

あとで言えば、石を二つもなげ

たとか、天皇制に疑念をもつてい

た少年であったとか、又騎乗警護

の馬があはれたことなど、勿論そ

んなことは知らずに見ていたの

です。

心のざわめきは唯一つの汚点と

うけとれましたし、よくいう魔よ

けに新築の家の柱に傷をつける、

あれのようにも思えて、割切って

みたりしましたが、四月十日に対

する、宮廷を含めて日本人全体へ

の何か警告というか、批評を代表

しているように思えてならないの

でした。

それぞれ、その局にいる人々に



嫁ぐ日へ母のロマンスみな話し
会計は出し惜みして信用され 大阪市
汐干狩またからおかの子守して 同
税務署の隣りへ越して来て太り 和歌山県
夫婦喧嘩へ姑子をかかし 同
浮動票ぬらりくらりとふところ手 八代市
お見合へ予想外れの茶をすすり 同
新聞へ製紙のストのシワがより 大坂市
破産してみてからもある人生 同
この春着見せたい人を眼で探し 西宮市
春の塵吸いつくように子を汚し 同
一人の親切明るい旅になり 須崎市
お見合へ美人の方はお連れさん 同
平社員また上役の趣味に凝り 玉野市
子の為と云い云い親の我を通し 同
女客僕は茶釜の下をたき 笠岡市
悪友の口添え今日は無事にすみ 同
落選の次の段取り逮捕状 伊丹市
海風いで仙酔鳥はさんざめき 同
おでん屋に傘借るほどの雨でなし 西宮市
大阪の空気がまずい鯉のほり 同
時間待ちの客と知ってるまき売り 大坂府
骨上げを待つ間ひばりのテレビ見る 同
日給の尊さを知る過去もあり ハワイ
大臣の礼儀皿まで持ち帰り 大坂市
失恋に鏡もくもったままでいる 西宮市

同 井石 悟則
同 木下 一休
同 永松 道雄
同 松谷 政俊
同 末沢 花見
同 高橋 蟠蛇
同 小谷 仙山
同 佐内 隆文
同 小川 静観堂
同 今井 浪六
同 中川 利男
同 宮政 周防
同 松元 利行
同 鶴飼 鮎子

婚姻の届戸籍課春多忙 下関市
貞操を守り通して恵まれず 玉島市
賽銭の箱は彼岸の人に向き 大坂市
くしやみにも十五年出女事務 西宮市
参議員長屋に遠い大抱負 豊市
悪縁にしても姑がやさし過ぎ 宮崎市
新和歌の菓子本籍は松屋町 大坂市
忙がしいのは口だけで子は遊び 松江市
うっかりつりこまれてがばれ 西宮市
夜学からつづけて来いと電話くる 明石市
ハイマール後悔という字辞書になし 奈良県
叩きかえしておいでと母の気が 大坂市
篤農は見学団になやまされ 兵庫県
ともかくも指命通りに反対し 笠岡市
鬼瓦に雀は何か話しかけ 西宮市
長生きはマイクの前に引出され 布施市
八方美人と聞くが家ではおこ 西脇市
仏前へ供えりや買取目をつむり 笠岡市
霜を見て驚を聞くとここに住み 河内長野市
セットして来たに気付かぬうの人 大坂市
再生を誓った金で酔いつぶれ 鳥取市
耳が遠いんでしじゅう気を使い 西脇市
選挙戦市長道路の悪さ知り 大坂市
発病は好まぬ野菜のせいにされ 西宮市
云うままになる両親で物たりず 大坂府
一票で大義名分立ててやり 小松市

宮藤 慈雨
井上 旭峯
萬代句念坊
酒井 丹詠
武田軍治郎
野口卯之助
中西兼治郎
田中 妖人
三上 笑路
五百蔵千人
木村よしを
堀 風船堂
斎藤たけお
谷本鈍愚坊
山岡 半歩
竹下 博
大江 秋月
高木 洩柿
森本黒天子
堤 勝三
谷 無閑
保西 岳詩
種谷 敏明
門永 三舟
石田 新石
筒井 吉枝

は計算すみの事だったかもしれませんが、それがよろこびの最高の瞬間に派手に行なわれたところに、この批判のもつ意義があるように思うのです。

因果といひ、苦は業の種、業は苦の種と申しますが、ナポレオンの敗因も、太閤の没因も、その幸運の絶頂にあったことを忘れてはなりません。

勿論、非行の少年は法によって裁かれ、無礼は許さるべきものではありませんが、冷静な批判の眼は、この汚点の上にそそがるべきであります。

健やかな前進のためには点検が
(33ページへつづく)



ヨクヨ
便箋



暴力 釜ヶ崎点描



IKE

第二次大戦後の日本の思想界に

重大な影響を与えているサルトルの実存主義は、死・苦悩・斗争・罪などの事実に基づき、この世界の中に投げ出された存在であることに目覚める、つまり現にあるような日常人・一般人としての自己を超越して単独者・孤独者としての本来の自己を自覚するという立場に立つものらしい。そして其の研究の中心に据えている問題は、大戦中ナチスが一千万の人間を殺戮したと言われるアウシュヴィッツの殺人工場に於けるような限界状況にある人間の思想を究明したものである。

突然私がこんな事を冒頭に言い出したのも、実は私がこれから書くこうとするスラム街釜ヶ崎が、厳密に言えばいろいろの相違点があるうけれど、人間存在の限界状況に近い状態にまで追いこまれて生きている人達の住む街という点で彼のアウシュヴィッツを聯想せし

めるものがあつたからである。

前後左右どこを見廻しても自分を支えて呉れるものは一つもない。あるのは自分に向つて敵意を持つ冷酷な現実だけ。仲間は何時裏切られるか知れない。今日ここに居ても明日は牢獄に繋がれているかも知れぬし或いは路傍で息絶えているかも知れない。こんな状態の中にあつて彼等が明日につなぐ如何なる希望を持ち得るであろうか。本人が自覚するしないにかかわらず釜ヶ崎の住人達は実存主義的な生き方を余儀なくされているのではないかと私は思う。

食物の焼ける臭いで街が染み

普通一般人の友達にとっては嘔吐を催しそうな不快な臭気であつても、此の街にうごめく犯罪者や流浪者達にとっては、他の何処にもない心を安らわせる故郷の匂いなのである。食物がじりじりと音たてて焼ける臭い、それは抽象的に或いは具体的に釜ヶ崎の体臭なの

暴力の街として、日本で最も大きい犯罪の温床地となつていて、大阪西区のタム街釜ヶ崎は、東京の山谷とならんであまりにも有名である。

そこで釜ヶ崎の匂を詠んで異色ある川柳作家西川晃氏にこれをわずらわせその一断面を点描してもらつた。

—編集局

西 川 晃

だ。

今さつき出て来たんやと丸刈りの

釜ヶ崎のすぐ隣りに、日本一の偉容を誇る堺刑務所がある。(勿論空間的な距離ではなくて実感の上の事だが) 刑期の終わった人達はちよつと旅行からでも帰つて来たように気軽に此処に戻つて来る。「いつ出たんや」「うん。今出て来たことや」「そうか、俺も此の周回かまよつたんや」といった調子で誰も怪しむ者はない。助け合つて行こと兎状持どし

友達も通称だけしか知つていず

罪に追われる者であればこそ尚更、孤独には耐えられぬのである。必らず仲間を作つてゐる。「兄弟」「兄弟」と傍で見るが、何にも親密な仲に見えるのだが、彼等自身お互いに心から信頼できる相手でない事は良く知つていたのでどれ程親しいダチ公であつて

も絶対に本名は明さないし又相手も強いて訊こうとはしない。お互いに相手に知られては都合の悪い過去を背負つてゐるからだ。

焚火あろちろ強盗に行く相談

バックで取られてすつからかんになった奴、仕事(といっても空巣やかつばらいが主であるが)にあぶれた男達が五十円宿に泊る金もなく芥箱や板扉を手当り次第ぶちこわして、それで焚火をしながら路傍で冬の夜を明かす。所謂アオカンである。あかあかと深夜の焚火に照らし出された彼等の貌は山賊共のように醜怪で、眼だけがけもののように不気味な光りを放つてゐる。こんな時に誰かが口を切ると忽ちにして強盗に行く相談が出来上る。

盗人の目玉がギョロリ陽が沈む

太陽が被れ切つたような弱々しい残照を残してガードの下に沈むと、途端に釜ヶ崎はいきいきと精気を盛りかえす。悪の世界が激しい息吹をあげる。盗品をかかえて盗人達がうろろする。それ待ち構えている故買(盗品買)が活動を始め。やがてパンパンが出る。男娼が姿をあらわす。酔っぱらいがわめく。

えらい世渡り盗人のピンをはね

釜ヶ崎の周囲にはリ立ちん棒々と言われる一群の人達がいて、あ

ちらの辻にこちらの軒に何するもなく突つ立っている。彼等は蜘蛛が巣を張つて餌物待つように、盗人達が盗品を運んで来るのを待ち構えているのだ。盗人達が非常な危険を冒して盗んで来た品物を、二束三文に叩いて買ひとり、それを業者や通行人に売りつけて生活している。生活といっても勿論正常な生活ではない。時には盗人の手伝い(盗品の運搬、仕事の見張り)もする。盗人が社会の寄生虫であるならば、寄生虫に寄生する彼等は何であらうか。その立ちん棒から金を捲き上るタカリという人種もあつて悪の世界もまた実に複雑怪奇である。

おかまにどやされましたとも言えず

釜ヶ崎という名称がオカマと関係があるのかないのか詳しい事は知らないが、とも角此処は昔から男娼が盛んに出没するので有名である。中にはプロボクサーのようにいかついのものがあるが、一般には彼女？達は本物の女性以上に女性らしい姿態で、いとも嫵々とした風情をしめす。然し元来が男性に違ひないのだから本性を出すすと猛々しいものがあり、一つ間違えろとんでもない事になる。どんな原因か知らないが、男娼に殺られて背くなつて私に助けを求めに来た疑の中年紳士もあつた。いやはや何とも見られたさまではないが、こんな事も決して稀ではない

い。

血みどろの喧嘩の因が二十円

毎日釜ヶ崎の何処かで血なまぐさい刃傷沙汰のない日は恐らくあるまい。ほんの一寸したことでも動物的な彼等はすぐに殺気だつて下駄を振り上げる。法律なぞ何の権威もない社会だから、暴力が正義であり法律なのだ。然し農林省の一小官吏でも数千万円の横領をやる時代に、僅か二十四の事で血みどろになって頭の皿を割りあっている人達がいるのも釜ヶ崎ならではの光景であろう。

無茶な奴同士が道理あらそえり

一般人の眼から見ると実に理不尽な行為をしていると思われる無頼達でも、矢張り彼等には彼等の理があるもので、事に当たると、それその立場で自己の正しさを主張する。悪の倫理とでも言うべきであろうか。真剣な表情で「話の筋が通っている」「いや通っていない」と論争しているのを聞いていると苦笑させられる。突に突つた倫理だとあきれたり感心したりする。

警官を下駄でなくって男売

現在の民主警察はだらしがなくていけない。現在の法律は悪人の人権ばかり尊重して、善人の安全は少しも保証しないのだから、まともな人間は悪人に脅やかされて

いつも戦々兢兢として居らねばならぬのは全く不合理だと思う。特に釜ヶ崎の様な無法の街ではその傾向が著しい。此処では腕力のある奴が権力をもっている。十人の警官よりも一人の兄貴の方が事態を收拾する実力がある。正に力は正義だ。警官を下駄で殴って威勢のよい所を見せれば、この男は明日から「実力者」に一步近づく事になる。

刑務所の味も知らんと見下げられ

「おい、チンピラ。臭い飯を食うた味も知りさらさんと大きなつらさらしたらべしやけてまうぞ。俺が、俺は前科十三犯じや。殺人強盗強姦、一通りはやって来たんじや」といった具合で、曾ての金鶏

勲章みたいに前科を自慢にしているのだからやり切れない。尤も彼等のみの社会のことで、我々トウシローとは住む世界が違ふ。

仁義切るやくざへ夜の霧流れ

「お控へなすつて。旂先の仁義失礼さんにござんす……」なんて歴史的な挨拶が、土王風の人達によって交されているのを時々見うけるが、たとえ歪められた狭義の解釈であつても仁義が行動の中に此かでも生かされているのであろうか。かつて一三夫さんが博徒の情誼の厚さを言っておられた事があるが……ともあれ濃霧の立ちこめる夜の路上で、流れる霧に濃く流

くその軀を明滅させながら仁義を取かわす彼等の姿は、美しい時代映画の一コマであり、しみじみとした詩情を漂わせている。

入墨をしてない方が兄貴分此の街に住みついて十年以上になるが、銭湯で刺青のある男に全然あわなかつた日は一回もない。それほど刺青をした人が多いのだが、然しぐつという兄貴分になると刺青などはしていない。我々に對する態度も至極穏やかで金ばなれもよい。それでいて狂暴な刺青の三下やくざを畏怖させているのだから何とも不気味な存在である。私が思うにこれは背後の組織が大きく物を言っているのではなからうか。

ストッキングの中から千円札を出し

唐たげられ搾取されて生きている哀れな夜の女達。彼女も自衛の爲には最小限の手段はしなくてはならぬ。私の店へ本を買いに来た若い女が、私の方を向いてバツとスカートをめくるとストッキングの中から千円札を出した。こんな場所にも隠しておかねばヒモ(情夫)からすつかり捲き上げられるのであろう。釜ヶ崎にはスケ(情婦)に売淫を働かせてのうのうと遊んでいる男の数も多い。私達には人間の風上におけぬ卑劣な行為であつても、彼等の社会ではその男はかいいいふもんである。世に敗けて酔うてどなつて

路で寝る

釜ヶ崎人種には過去はあつても未来はない。或いは過去すらも忘れて了つて現在だけが彼等の總てである。今宵宿(ドヤ)に泊るそのドヤセンもすでに飲んでしまつて、わけの分らぬことをどなつて歩いて倒れたところが寝床になる。彼等が飲むのは大抵バクダン(メチル)の多い悪質の密造酒)だから、酔い方もひどい。この酔いどれに對して実に親切に介抱するのが実は介抱と見せて懷中をぶったく所謂「介抱泥棒」という奴だ。

凍死体無懸や服を剥がれと

懷中物だけを盗るのはいくらか良心のある方で、オーバーから上衣ズボンの類に至るまで剥ぎとつて凍りつく路上に捨てておくひどい奴がある。夜が更けるにしたがつて次第に寒さが厳しさを加えるのとアルコールがきれて来るのと両方で自然に人間の冷凍ができあがる。常識ではちよつと判断のつかない冷酷無類な所業であるが、彼等独自の哲学があつて些かの良心の苛責もなしにこのような無軌道な行為をやつてのける。

霧の街乞食も詩情あることし

もろもろの人間の醜い争闘や悲喜哀歓にかかわりなく、善も悪も大きくそのふところに包んで大宇宙は、過去から未来へ向う水坳の見えざる歩みを続けている。悪魔に魅入られたような罪と穢れの

街、釜ヶ崎も大自然が吐き出す白い息につつまれて一瞬にして浄化され聖なる大自然と呼吸を一にする瞬間がある。人の世の残敗者であり、情性で生かされているような乞食がとほとほと霧の中に消えてゆく姿にも生の尊厳を深く感ぜしめるものがありそこに人間と自然がつくり出す美しい詩があるように思われる。私達はどんな社会にも希望を失つてはならない。

以上私が川柳によつて促えた釜ヶ崎であるが、これは米山の一角のごとく表面的な現象のみであつて内部をもつと深く掘り下げれば未だいろいろの事が出て来るであらう。

釜ヶ崎のような街がどうして出来上がるのか。その原因を追求すれば、その根底の日本の暗い現実があり、又政治の貧困も大きく取上げられるであらう。然しこの問題は単にそれだけの事で解決のつかない問題を含んでいる事を我々は知らねばならぬと思う。

路郎先生が終戦後間もない混乱期に発表された有名な句

古くとも僕には仁義礼智信この句が示す精神が次第に失われつつある現実である。是れは釜ヶ崎という一小特定区域に限定される事ではなく日本全体を通して言える事なので、正しく明るい日本を建設する為には、豊かな情懷を涵養する事と、新時代に適わしい道徳を一日も早く確立する事が絶対に必要だと私は痛切に思う。

・特集・

わが

天職の句



川柳ルポルタージュ

社会科学の先生

戸田古方

大谷学園の社会科学の先生、満十七年六カ月、先祖の七光りでおとなになってからずっと財団法人、今では学校法人と名がかわりましたが、その理事か監事という役名をせなかくつつけています。とにかく、毎朝おくり出される門口を足音高く出てゆけるんですから私にはよっぽどうれい仕事にちがいありません。

リンがなる途端にすてる標準語

祖父、父二代五十年以上のもの商売をやめてなった先生ですもの、はり切っていました。はり切り方では今も昔も変りはなくとも、リンがならんでも標準語なんかとうの昔にすててしまふほど昔が生えました。

追いかけてきてまで女の子のわか

れ

女生徒のわかれ録音してみたし

五千人の女の子にとりまかれています日頃、ほのほのとしたものを感じもしますが、時には女の正体を知らされるようなこともあります。

あやまりにくるに女生徒つれがい

り

私どもの学生時代には職員室はこわいところでしたが、この頃の子供がそうかどうかは知りませんが、園市ほどに職員室はにぎやかです、なごやかといえませんが、制服の紺とは別な裏の色

冬にオーバーやトッパが教室の片隅にかけてあるとちらちら色がのぞいてきいす、何しろ女の子ですもの。派手にすると不良に狙われると頭髪、靴、靴下とすい分こうるさいことです。

恩なんか知らずすすすすく生徒

は伸びる

予防注射みたいなつもりで説く宗教教育ですが、逆説ととっていただいても差支えありません。

先生があわて生徒が又あわて

ほんとうに人命をあずけられた戦争中は案外にあわてなかったようですが、平和になつたら本性が出てしまつて、

校長の居間茶道具が一揃い

うちの校長佐藤義詮先生ではありません、こんな静かな校長さんにもどってほしいと、どんなに思つたかしれません。選挙の句ならドツサリありますが、

一期一会 蛍の光すまんとす

宗教教育が先生にもゆきとどいてこんな句も生れるのです。

銭けのことは足るを知るでよし

三八四号(五月号)川柳塔の句です。卒業記念のサインブックには来年からこの句も加えることにしましょう。

鉄道生活

三十二年

浜田久米雄

昭和二年の九月十八日、セルの着物にセルのはかま、烏打帽をその時分はやつたように「は」を入れて丸く高くしてかぶり下駄ばきのバスケット持ちという田舎のアイさん丸出しのほくの姿がたどりついたのが宝塚駅であつた。その日からほくの天職「鉄道員」の生活がはじまつたのである。

伯父が鉄道に奉職していたが若くして亡

くなったこと、家の裏を山陽本線が通っていること、同村に鉄道のエライ人がいたことなどの理由で国鉄へ勤めることになった。あれから三十二年間、けがもせず大した病氣にもかからず無事平穩に勤めて来たが三十二年間の出来事や、思い出を綴ればずい分長いものになる、宝塚駅に就職してから三日目だったか宝塚劇場で駅のリクリエーションがあり新米のほくも連れられて行ったのだが、廊下に敷いてある赤いじゅうたんに目を見張るし、昼食に出された洋食の喰べかたがわからず真赤になって味もわからぬままにナイフを使った当時の純情さはいま思い出してももつともなつかしいものの一つである。尼ヶ崎、神戸、大阪の各地を転勤して十一年に広島へ転じ、十九年に故郷岡山へ帰ることが出来、駅長を一年間といろいろな仕事をやって来たために各地に鉄道を通じての多くの友達を作ったが、とりわけうれいのは九年に大阪で川柳をはじめたために勤務地を變るたびに柳友がふえて来たことで、鉄道の仕事をしながら部外者の川柳人と親しく交際のできたことが一生の収穫であり感謝でもある。

国鉄はお客さんと荷物を安全に、迅速にしかも安く運ぶのが使命であるからその意味のもとに三十二年間働いて来た。定年までもう六年ほどあるが、なんとかして元気で愉快に残された天職の年月をたのしみたいと思う。現在岡山駅五七〇人の庶務助役としてあらゆるサービスに専念してい

る。

制帽でわが行く道のはるかなる
昇進へ仏間明るう灯しとき

上役が笑い事務室みな笑い
菊が咲くころ恩給のつく話

駅長の帽子の横で花が咲き

駅長を出せと何かが氣に入らず

山峽の春をみんなにいたわられ

効績章汽笛のながを歩いて来

四十五の老眼鏡を派手に出し

青切符三枚うれしく切ってあげ

宮大工の履歴書

清水 白 柳

地駄ン太を踏んで大工は板を替え
川雑の第二号か三号にのつたこの句はま
だ故郷の小松市におつて宮大工を修業中の
大正十三年の作品である。

なぐられて落す煙草に煙が立ち
憤然と突込む朝日灰に折れ

大正十三年の秋に大阪へ出てきてから
は、鉄道関係の土建屋の手代をしていた、
その時代に湊町保線事務所へ入札に行つた
りして、山雨凄氏と知合いになり、よく話
を聞きに行ったりした。若気のいたりか生
意気だったのか現場で土方になぐられたこ
ともあったその頃の句である。

一寸した血はなめておく大工の手
公休の工場で大工ひびかせる
棟梁が一升おごる雨になり

土建屋の手代を止めて五六年はこの句の
ような状態で働いている。昭和十一年頃に
神具製造販売を始めて終戦まで続けたが戦
災でハダカになってしまった。終戦後神も
仏もないといった時代に神具の店を始める
のに苦しんでいた時の句に

ペンキ塗立て桜とんちゃくなしに
散る

腕で食う職人にして猫背なり
雨の日も出来る居職を羨まれ

などがある。宮大工の本職にようやく選
ることが出来たのは昭和二十六年から以後
である。それから、土佐稲荷末社、布施春
日若宮社、玉造三光神社本殿、淀川戎神社、
阿倍野神社本殿、拜殿、等の神社建設や、
出雲大社、天美教会神殿の建築などを施
工した。

仮の社務所で場の渠もなく
直線の素直さ伊勢の御ん社
ところが昨年からはまたまた
スリッパを大工に貸せばはきつぷ
し
のように働かせてもらっている。

警察という職場

直原 七 面 山

刑務所の庭にも桜咲きは咲き
棘死体の右手に残る子の土産
公判廷キッスの敷に念を押し
パトロールの靴春泥を踏んで行き
どなられて初犯の男泥を吐き

死刑囚火花の音に過去を追ひ
刑事今日釣竿持って仕事に出
三千円盗むに家内中殺し
名刑事喚めきたいだけ喚めかせて
犯人の足が故郷を踏みたがり

直接犯罪者や容疑者に接するわけではご
ざいませんが、私の机の上をあちこちする
書類は強盗、殺人、強姦、放火、スリ、売
淫、無理心中などの生々しい犯行と目を覆
うばかりの現場のありさまをそのまま記録
したものばかりで、県内の出来ごととはもち
ろんのこと、全国各地で発生したすべての
犯罪の手配が、時々刻々と私の目の前を通
って部内の各部門に、全国各警察本部に流
されて行きます。

ですから、とても明るくて楽しい職場で
すなどとはどうひいき目に見ても申し上げ
るわけには参りません。

強殺事件などの手配書などを三、四通も
つづけさまに読まされたりなどしますと、
どうも頭の中がモヤモヤッとし
て来て気分も勝れずなにをする
気にもなれない時がときときあ
ります。

でよそ目には、そんな職場に
いるのならさぞかし川柳の素材
も山ほど転っていて、相当面白
い句がポコポコジャンジャン生
れて出て来るだろうなどと一応
考えられるかも知れませんが、
ところがなかなかそんな具合に

は参りません。

いわば丁度、外科のお医者さんが腕の折
れた患者さんを診るようなもので、やれ強
盗だやれ殺人事件だといってみても、それ
はもう日常茶飯事のことで、よほど特異な
ケースのものでない限りなんの関心も感動
も決して湧いては参りません。

従って、作句意欲をとり立ててかり立て
られることもなく、見過ごしてしまふ場合
が多いのです。

しかし、たまたま私が川柳の作家にで
あり、しかも警察という特殊な職場に
勤務しているからには、これら「犯罪者」
の実態や、またこれを追う「警察陣」のあ
るがままの姿などを十七音字を通じて描写
して行くことは、これは私に課せられた川
柳界からの特命事項でありまた私の責任の
一端でもあると深く痛感いたしておる次第
です。

ところが、抜いまだ至らずと言いましよ
うか、それとも機いまだじゅくせずと申し
ましようか、みなさんも御承知のように、

迅速で・経済的

東京・静岡・名古屋
へ御進物品

マツザカヤの

直配承り

お中元に……
暑中お見舞に

二・三種類のお進品を取揃
えております

3階 御進品相談所



大阪 日本橋
松坂屋
電 (64)1531

(名古屋以東の中元
は7月15日まで)

私の職場を通しての句は至って少なく、しかも、これといって見ていただく程の句とて一句もございません。

ですからこれを機に、〃罪の世界を深く掘り下げ、犯罪者の心理を深く見極め〃いろいろな句を作って参りたいと思っております。

黙否権の行使へ刑事茶をすすり

開業医の悲哀

那谷 光郎

誰しも自分の職業に飽き他人の職業が羨しくなることがある。それが儲かると否にかかわらず他人の職業がよく見え、或は飽きがくるのであろうか、俗に言う「おかめハもく」とでも言うか。人間の心理とは微妙なもの。私のような田舎の開業医にはこれが天職であつても悲哀を感じ嫌気がさすことが度々ある。

だがその反面又捨てがたい面白いこともあり嬉しい時もある。だからこそ思い返して職務として続けて行けるのである。重忠が予想に反して癒って来た時の優越感と満足は筆舌尽しがたい程である。

患者の心理とは面白いものである。予期せぬユーモアを発見したり、人間性の或る反面を見せつけられたりもする。

医者も人間である以上は時に飲んだり酔うこともある、休診日ともなれば人間並に行楽もしたい、業務を離れて余裕ある一日を過したい。

昔から医は仁術と言われているが、実際そのように応じてやって行けたのである。然し現代ではとても叶わぬことである。真の意味の商売化してしまっている、流行医になるためには少くとも田舎ではお世辞も愛嬌もふりまかねばならない。仁術もさることながら、医業経営のためには色々面倒な事柄が出てくる医者として実力は勿論必要であるが。

医業も亦つらいかなである、大病院の院長や官庁関係の勤務医の方々は一矢に附されるかも知れないが、我々開業医に最少限度の生活保証が日本の政治にあるなら、もっと人格を高潔に尊厳を保ち威張る訳ではないが業務に専念することが出来るであろう。戦前に比して道義の頹廃もなげかわしい限りで医業も愈々営利業化しつつあるを悲しむ者である。

○ 貧にして痛む往診へ戸がきしむ
聴診器を診るなと思えども
喚きに來た猫撫で往診袍閉ず
銀の輪をいささか笑ひ聴診器
ポケットに転がけて診察台にてれ
女医さんへチトてれくさい舌を見
せ

西瓜選る女医はうっかり打診する
看護婦に居留守つかわせ二日酔
素人療法訊いて訊かれて控室
たくまない仕草で女医は見をあや
し

鮎と割烹

松江 梅里

気前よく腹の痛まぬビール抜く
割烹で名指しをされる平社員
かくし芸残念ながら鳩っぽ
月謝ほってはりまんなあと猪口を
さし

下戸一人飲み手の中を酌ぎまわり
ほろ口の話の中へ蒸しタオル
貸付けに居て飲むことの多かりき
御祝儀を帯に挟んで御返盃
誘惑を意識しながら猪口を受け
落籍されて切れて仲居をしています
す
末席は妓一べつくれただけ

○ 「すし」の句がないのが残念である。アベノ地下映画食通街にある店は、路郎先生選の大万川柳によって異色すし店として、日本唯一ものではないかと思っている。
毎月二十一日の入選句発表の日は、川柳をやっていない人まで掲示の句へ目を向けているものはいはえましいものがある。

「きょうのすし、とうない旨いで」というのは入選組だろうか。入選、没によって、すしの味までちがうところに大万すしがあるようである。それもそのはず、当店は川柳系の柳人ばかりでなく、各吟社の猛者連まで詰めかけてくださるのである。とにかく二十一日の発表の日は、正にスシ詰めの大

古本屋

西川 晃

組合の規定が古本屋の無愛想
古本屋には大体に於いて無愛想なのが多い。店に這入って行っても「いらっしやいませ」も言わず、ふくれ面して眼鏡こしに客をじろじろ睨んでいるような親爺が大部分だが、これはつまり上手に愛想など言えぬ人間が古本屋になっているという事なので、決して組合がそんな阿呆な規定をつくるわけではない。然し客の側にしてみると「商売人のくせに、何だあの態度は」ひよっとするとこれは組合の規定かも知れんぞ」と錯覚を起すかも知れぬと思ったのである。

○ 反俗の気骨もあって古本屋
商人は飽迄も利潤を追及するのが立前だ。そしてその利潤を追及するという行為は、詩をつくるという事とは本質的には相容れないものである。だから詩や文学に関心を持つ私などは商人としては落第生であろう。然し私自身はその事にむしろ誇りを感じている。

ソクラテスに似た禿げ方で古本屋
前垂れをして哲学の書に耽り
株の研究でもするか、脱税の方法でも考
えればいいのに、一銭にもならぬ詩を書いて見たり、哲学の書を囃って見たりする。
そして大切なお客様のことを「あの野郎、

繁昌であることはありがたいことである。

いつもくだらんエロ雑誌ばかり買いやがって」などとひとりに軽蔑したりするのでから全くもって商人の風上にも置けぬ存在である。

店は閑ドラマに泣いた眼鏡ふく

大いに高邁な言辭を弄したり、深刻な表情をつくって見せたりする反面、ミーパー族用に作られた安っぽいラジオドラマに泣かされて客に知れぬようにそっと涙を拭く低級なセンチメンタリズムも多分に持合わ

せている私である。

夏枯れの店に動かぬ熱帯魚
この熱帯魚はまた、自分の棲むべき世界から遠く引離されてこの釜ヶ崎でくだらぬ本を売って糊口をしのいでいる私自身の姿であるかも知れない。日本の文化の一翼を担っているのだと自負できるような本ばかり並べて、それで生計が立つのであれば、私は今少し「誇り高き男」になれるであらう。

首振って立派そつと帰りけり

一日一善という本を盗られ

立派さが突如けたけた笑い出し

本屋十年本包むのの下手な事

「旅人」を閉じどれ店をしめようか

スルメとラムネの二本立

55円館の売店

不二田 一三夫

女（老幼もろもろ）の声で、

「オツチャン、セナカちようだい」とか、「オナカちようだい」または「足一つ」男（老幼もろもろ）の声で、

「オッサン、胴くれ」とか「カラダくれ」または「尻ッぽ三つ」

みなさん、コレなんだとお思いですか。これこそは、わが店の「スルメ」を買にくるモロモロの声をアブ・レコ（後時録音）したもののなのです。

小さいスルメは一枚（正しくは一びき）原価七円程度で、これを焼いて十五円以上に売るのが、早くサバクのために胴（身）と足を切りはなして十円と五円で売る。よく売れる日は、焼くのが追われるぐらいである。

この胴を、表から見てセナカ、裏から見てもオナカという、お客様であることも達の立体感覚はなかなか鋭敏である。（こども達の絵画に大人の及ばざる観察があることはその道の大家でさえ舌をまく場合があるそうである。）カラダと見たのは平凡だが、裏と表から見えて背中と腹にわたったあたりは愉快である。

タコの足は八本だが、イカは足が八本、手が二本で計十本あるわけである。これを「足」と言うもの、「手」と言うもの、または「尻ッぽ」と見たのはケツサクだ。

「オッサン、丸グタや」と言うのは、イカ本来の姿、つまり五体そろったもので、これは一枚二十円から三十円で売る。とにかくウチの小屋を「スルメ座」というヤツがいるほど、スルメは有名である。

この折れて曲がるボロイ商売も、弱い番組のときは、20円売りのキャラメル（森永、明治等、原価16円80銭）だけより売れない。こんな日は赤字である。

売店のほろいスルメが売れ残り

休憩時間は五分間か十分間よりない。そこで客がドツと津波のように寄せけるとウロが来てしまう。（白状するが銭勘定に弱く実力は小学校三年程度と妻はフンでいる。）なかにはそのドツサツサを利用して盗みにくるヤツがキツいいるし、金を払わずにツリ銭まで取って行くヤツがいるのだから油断もスキもない。それにいずれも本番ときているからスリルとスピードの連続だ。かてて夏には完全暖房となる場末の三流館である。水もの（飲みもの）の売れ行きは一流館なみの水あげがあつて、ここでボクのラムネ板く手練の早業（わざ）が大活躍するのである。

国鉄スワローズ金田投手の黄金左腕に匹敵するのがボクの右腕である。ウソではないですぞ、ときどき店へ遊びに来てくれる河井庸佑クンや、友の会の久米奈良子さんならこの快速右腕を証明してくれると思う。

原価五円のスルメが十円、四円のみかん水が十円と、これも

各種毛織物卸



加賀繊維株式会社

大阪市東区南本町二丁目一番地

スタート
着心地のよい

O.S.K.

レディース

大坂商店

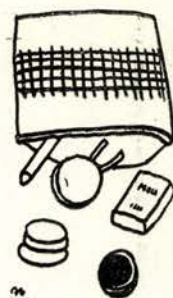
大阪市中区本町一丁目一番地
電話(99) 1745 5543

折れて曲がるが、これとて毎日いいときはかりではない、一貫目三十円の水代があがらぬ日もある。
ラムネは冷え切ってしまうと気が抜けて、玉が自然に落ちることさえあるのでこゝらに売店の泣きどころもあるというものである。水ものがよく売れるとホクホクものだが、そこはそれ興行はミズ商売というし、商売はまたミズものともいう。

ラムネ冷えきって売店ひまらしい

用字用語に

関する私見



早川 清 生

このほど国語審議会から送りが、かつ成功を収めた。多年国語のあまりな複雑さに悩んできた大衆の大部分は無抵抗にこれを受け入れ、一部分は無関心の故に反対しなかった。実際に用いてみたときの軽便さと十年の慣れとは新方式の現在の地位を確定し、マスコミにおける歓迎と教科書への採用は将来を決定づけた。本誌でも早くより新しい用法に踏切っておられ、その措置は正しかった。

何事にも長短両面がある。国語審議会の重視したのは多岐に流れている言葉を一統することのほかに、煩瑣な国語に対する知能の浪費を防ぎ、平易化によって誰にも理解できる国語にしようという点であったと思われる。事実私たちが国語を習得するのに要する時間は莫大なものであるし、それにもかかわらず例えば国語研究所と新聞協会の調査によれば、「質す」を説き得たのは高校生で一〇％「身代金」のような字でさえ地方青年の一三％しか読めなかった。

漱石や鵲外が古典になったと嘆く以上に、スポーツ紙以外は新聞も満足に読めない青年の増加を恐れるほど字を知らないことは私たちの常に体験するところである。国語はもとより特定の者のためにあるのではなく、知識はいつも普遍化されなければならない。この点改革案の趣旨はまさに結構である。ただわかりやすさを第一としたため、いくぶん系統立った理論と言葉としての味わいを失なっていた。文法上からみてもたくさん

の例外を生んだ。言葉は生きている。旧かなづかいが往古の発音を今に守る愚を犯しているなら、これを改めることは至極当然である。このような不合理はどこの国語にもあって、英語でコロを「フ」ドイン語で「エ」を「オイ」と読んだりするが、使いやすいように改めるに越したことはない。そう言った反面新用法には時代から時代へ流れている言葉を現在で固定したきらいがある。言葉を進歩するものと考えるとき、将来いっそう混乱するものとみて現状で食い止めようとしているのではない。また国語はこうでなければならぬという指導理念に基づくものでなく、便宜主義に走ったため国語の改良という目的から一歩退いた。用字用語の基準ではあっても、規範ではなくな

った。形式の改革に止まり、内容の改革という重荷を自ら回避したのである。従ってこの案は必然的に恒久性指導性を持つものでなく、いずれは空文化する恐れを捨て得ないのである。

言葉は意志伝達の手段であって目的ではないから、簡易な言い替え語があればそれを使えという。ごもつともである。不必要に難解な語を用いるのは術学以外の何物でもない。川柳では十七音字という制約があるので「臨検」を「立入り検査」というように長くなる場合は少し不便だが「編輯」を「編集」、「首魁」を「主謀者」などに改めるのには既に慣らされた。しかし言葉は古い伝統の基盤の上で洗練されてきたものである。用語の深化は文化の発展に伴ってきた。言葉のさきわい過ぎるのも困るが、誰も土人の貧しい言葉をもって理想とはしない。エネルギーを振るだけで食事の目的が達せるなら、一つの料理を覚えていれば毎日が足る。同じ意志伝達の手段でも数学に使われる言葉と文学で用いられる言葉では本質的

に性格と評価が異なる。一つの事情を表現するには一つの言葉しかないと考えるのはフロイドだけではない。意味が似ているというだけの無責任な言い替えは言葉の微妙なニュアンスを失わせ、句の価値を減じる。まして短詩型では一字一語の重みが小説におけるよりはるかに大である。

新用法に早く切替えねば時代から取り残されると心配する向がある。新用法がオールマイティの權威を誇っているようだ。たしかに現代かなづかいは国語の趨勢かもしれないが、当用漢字は制定以後すでに補正が行なわれている。言葉は時代とともに変化するが文芸は永遠である。小説家のうちいまだに在来の用法をよしとする人が少なくないのは注目すべきである。広辞林も新用法による改訂版が出ていますが、編者金沢庄三郎氏は旧版も絶版にしないよう発行所

ご贈答にはそごうの

商品券

1,000円～10,000円
大阪店・神戸店・東京店 各店共通

大阪・心齋橋

そごう

は旧版も絶版にしないよう発行所

に由し入れたという。現在は実験段階だからしばらくは大きな揺れ動きがある。すぐ神経質に眼を光らせるのは日本人の潔癖さで、少し遅れても前途への確固たる見通しを得てから態度をきめたい。せっかちな乗り遅れ恐怖症は悔いを残すであらう。

私たちはいたずらに新しい言葉を追うより、内面で熟した言葉を大切にしたい。使いたくない言葉には借着のような不自然さと抵抗を感じる。イメージの形成が十分でないからだろう。慣れということとは大事で「常とう手段」などという変ちくりんな使用法は別として、すでに「金」や「田」の簡易字体もお粗末とは思ひにくくなった。それに、知っている便利な字を使えなくするため当用漢字音訓表を覚える人はあるまい。理解されねば何にもならないと平易な文章を勧める人があるが、それにも限度がある。文芸誌は新聞と違う。ある程度以下の人には、自らを低うして媚びるより、その人たちの引き上げる努力こそ肝要ではないか。大衆に理解されるため格調を下げた画家など聞いたことがない。また漢字攻撃も流行の一つで、マスコミなども熱心に採り上げてはいるが、そのマスコミ自身が例えば毎日の新聞に出てくる外来語に異常な寛容さをみせる。新聞の一面から終りまでに現れる外来

語をすべて理解できる頭脳はまさに天才的だ。漢字は一度覚えればそれから多くの熟語を類推することができるが、外来語を表わすカタカナは単語として意味を知らね

酒 清



灘・魚崎

大塚合名会社醸

ば全くと手上げた。煩瑣なのは漢字ではなくてむしろカタカナではないか。

耳で聞いてわかる句、歌える句がほしいという意見がある。郷愁を覚える意見である。そうなれば川柳も楽しいだろう。詩の世界でも藤村を代表とする明治ロマンチズムは多くの愛誦するにふさわしい詩を残した。しかし時代はやがてその素材さに満足できなくなり、有明、白秋らのサンボリズムに移行する。このあたりから詩の難解性が問題になりはじめる。短歌の世界でも同様である。十七音字の川柳ではまして物心両面にわたる現代の重圧、社会機構の複雑さ

に堪えるため難句が生れることも止むを得ない。時の流れは既に歌う句から読む句、考える句に変わっているのだ。句を発表する形態にはいろいろあって、文字により伝達され鑑賞される場合が最も多いが、群の文学と言われるだけあって、句会などで音声により披露されることも少なくない。この場合わかりやすいに越したことはないが、句を発表する一方法のため川柳を方向づけるのは本末を顛倒した考えではなからうか。

やかましく言われる国語の混乱とは、言葉の文法的な誤用、卑俗化、意味の転化、でためな新造語などを指すのであって、以上の議論とは厳密には関係がない。新用法で書いても、従来からの方法を用いても誤りとは言えない。私たちは両者を対立したものと考えず、さらに慎重に検討しようではないか。元米国語とは上から押しつけるものでなく、生れ出るものである。相ともに理論と実作とでこの問題を追究したい。もちろん本誌が雑誌としての識見と体裁から新用法に統一して発表されるのは間違いないが。なお一三夫氏のよく言われる「酒を呑む」などの書き方はこれらの問題以前の事柄であって直ちに訂正が望ましい。だいたい用語を正すことは私たち文芸に關与する者の義務だと考えている。

ビュイセンの近著「今宵カリブ海に死者いずべし」には熱帯の島に退化しつつ生きる白人たちが描かれている。彼らは何代にもわたり、土人に囲まれて狭い白人社会を作ってきたため、生活はすさび言葉にしても先祖の使った方言が簡略なわけのわからないものとなつて残っているにすぎない。いずれ彼らは皮膚の白い土人として、土人の中に亡び去ってゆくことだろう。何か示唆を受ける話である。

(完)

(25ページから)

必要です。自ら神の座を下られた天皇御一家は一部の金持や、権力階級の人々よりずっと封建的でないことを望んでいられるように見えます。しかし伝統と革新をバランスすることは右と左の妥協がむづかしい以上にむづかしいかもしれません。

日本という

国は本来、隣国中華の如き強大権力を必要としない分権的性質を多分にもっています。これは環境からきているので

しょうが、歴史は歴代天皇が力の座のお方ではなく、徳の座の御方文化の中心であられたことを教えています。

明治、大正、終戦までの天皇はむしろ変則的強大天皇であり、一部権力者のあやつるところであったのです。終戦後、天皇の地位が象徴となられたことに驚いた人もあるでしょうが、日本史をまともにもみるならば、象徴ということこそ、日本天皇の本来のお姿であり、万世一系が全うせられたわけはここにありと思うのであります。

ただ強大天皇が、近い過去におられただけに、一部の人間によってその誤ちが再びくりかえされる危険が絶無といえませんが、若いプリンス、プリンセスの良識に期待するとともに、心すなおな多数の人々の善意によって日本の新世紀が輝かしくも押し開かれることを祈らずにはおられません。

一九五九・天皇誕生日

野尻千草の料理教室

会員募集

大阪クツキング スタジオ

堺筋本町二丁目南50米西側
ユニオン洋装店階上 TEL(25)4943

講	入
座	門

研究 題

「嘘」

戸田古方



嘘ついて出れば日輪まぶし
 すぎ 真奇
 嘘だとは言えず夕陽の窓を
 見る 美舟
 嘘ばれてきそうになつて眼
 鏡ふき 一鶴
 ばれそうな嘘は逃げ足もじ
 もじと 句念坊
 嘘と太陽だとか、嘘と眼鏡だ
 と、嘘と逃げ足だとか組合せる
 ことによつて盛り上りを作り上げ
 うというのです。「逃げ足」は
 「ばれそうな嘘」と大へんよく
 つつて、つきすぎているといえ
 ますが、他の三句は必ずしも「太
 陽」でなくとも、「眼鏡」でなく
 ともよさそうです。こういう組合
 せはつきすぎるより、ある程度は
 なれている方が面白い句になるよ
 うです。しかしはなれ、又はなれ
 すぎると何にかえてもよろしく、
 所謂「動く」句になりかねませ

ん。この四句では「眼鏡拭き」が
 一番うまくいっているように思
 います。何かしらくつつただけで
 句らしいものにはなりまし
 が、それだけではよ程気をつけな
 いと類句、類想にもなりがちで
 す。「眼鏡拭き」の句は、からだ
 の一部といつてもいい眼鏡をもつ
 て来たところによさがあります。
 照れかくしに、からだにしてくら
 だでないものをもつてくることに
 よつて、たとえはかには特別の表
 現らしいものはなくとも、その人
 のすみずみまでみえてくるよう
 です。

*

こんどは訂正の研究をしてみま
 しょう。

嘘の又嘘を税務に教えられ
 この「税務」は「税務署」の略で
 あつて、一人の「税吏」ではない

のでしよう。それにしても、一寸
 「税吏」としてみたい気もするの
 ですが。

長距離の嘘は杯もったまま
 八九寸

「長距離」というまでもなく「長
 距離電話」なのでしようね。そう
 ときめれば雰囲気も人物も出ては
 きますが、「長距離」のつっぱな
 しはみてくれがわるいのでちよつ
 とときまぎさされました。適当な
 省略は短詩には必要なのでし
 が、省略は余韻として感じとら
 べきで、語そのものの省略、縮語
 はなるべくさけた方がいいように
 思います。

嘘つきの子が恐ろしい程美
 人 保夫

「子」です。美人という以上女
 子であるのでしうが、この子を
 「娘」とするかどうか。俳句のよ
 うに運座をしない川柳では耳で
 だけで理解するものだから、
 ルビをうたねば「こ」とよめない
 「娘」より、誰でもが間違ひなく
 読める「子」の方がよさうにも
 思えます。句主が親であると思
 れば性別を出さず「子」とする方
 が自然でもありますが、私はそれ
 でも「娘」を思いきつて捨てる気
 にもなりません。

悪いとは知りつつ誠が言
 きれず たつよ
 この句では漢字の「誠」が問題に
 なります。「嘘から出たまこと」

などといえますから、「誠」で結
 構なのですが、私なら仮名にした
 いところですが。それから、誠の次
 にあるテニオハの「が」ですが、
 「まこと」をもつてくれば「が」
 はない方がよく、「が」を生かす
 なら「真実」とか「本当」にした
 方が頂戴しよくなるのではないで
 しょうか。

だまされませんなどと女は
 だまされる 可笑

繰返しをつかつた穿ちの句で、
 よくやる技巧ですが、問題は「嘘」
 と「だまされる」のちがいです。

「だまされる」は語法が受身であ
 るばかりでなく、人物も受身、裏
 から表現した嘘です。「嘘」と
 「だます」は同じものですが、

「鉄瓶」と「茶瓶」ほどのちが
 いはなくとも、「嘘」は「嘘」、
 「だます」は「だます」です。川
 柳作句の功徳の一つにもの本質
 をつかめるようになるというの
 も、このへんのことをいうので
 しよう。

十年もたつても嘘だと思
 われず 参無子

「も」が二つ重なっています。二
 つ重って悪いということはありません。
 使う場所によつては大いに
 句をよくもするものなのですが、
 ここでは、この「も」はどちらか
 一つにした方がよくはないでし
 うか。はじめの「も」は「十年」
 を強調し、あとの「も」は「も」

ノイローゼをふっとばす

習慣性や副作用の心配がない 催眠鎮痛剤

プロパン

【健保適用】

30錠 60円 100錠 150円・医家用には粉末 25g〜

日本新薬株式会社

プロパンはもちろ
 催眠剤ですが、又一方
 に於ては大脳皮質の
 緩和を鎮痛剤としても
 大へん広い用途を持
 っています。
 例えは……最近話題
 のトランキライザー的
 な使用法もその一つ……
 イライラ、ジリジリ
 した時にいつも二三錠
 これで気分も落ち着
 いて夜も又安眠、と
 いう訳
 あまりクヨクヨせず
 今晩はプロパン錠で
 熟睡なさつて下さい。

金 泥 集

選 乃 菫 生 麻

課題 「螢」

岡焼の螢二人につきまとい	阿 茶	螢飛ぶ濡れ場役者の意気が合い	梨 里	螢追うに智を気にするのも女	友 子
スカイサイン隅におけない螢なり	同	曇間見る螢の素顔只の虫	清 子	螢追う不覚野つばにはまり込み	陽 子
追いかけた螢は小川を越して逃げ	同	残葉は憎しはたる死に絶える	美 喜	孫が寝て螢飛び交う蚊帳の中	明 美
ボスターの螢が飛行機で届き	きこ子	残葉が螢一匹握って来	たつよ	螢もでたでたと街の孫を呼び	万 女
工事中の向うで螢光ってる	同	遮断機が降りて螢ははつとする	春 栄	螢狩蛙のそら豆踏み倒し	美音子
ミシカたかた母と螢がまだ寝ない	同	螢狩母は後からついて行き	あやめ	母娘して螢のような火を囲み	女
螢籠蓋あけなやと持たされる	一 栄	はたる虎夜店の切れたとに立ち	葉乙女	螢籠さげ分教の子等が来る	都詩子
螢狩ボスター程に飛んでいず	同	螢狩パスがくり出すにぎやかさ	小 菊	螢狩ババの声にはよって来ず	初穂
スイッチを切つて螢は身を護り	若 菜	追憶は螢を追うたお下げ髪	小 石	語ることもうない前をとぶ	螢 雅佐女
甘い水ここよと螢誘われる	玉 枝	アベックの真上は消して飛ぶ	螢 美舟	螢籠今日はギツチョがお留守番	腹 乃
灯を消せば太く息する	鬼螢 俊江	埋立てて螢の季節忘れられ	梨 花	次の題「夕刊」	切七月末日
		姉ちゃんの恋へつきあう	螢狩 花代子	「共学」	切八月末日

になります。さてどちらをすてるかは句主にきめていただくことですが、みなさんならどっちにしますか。

娘の嘘を聞いて（る）母の嘘が笑い 慈 雨

父の背きびれ（て）嘘がもう言えず 岳 詩

（一）内の「る」と「て」はあった方が耳にくるひびきはよいのですが、形がととのいすぎて内容をうしなつた百人一首の歌みたいになりかねません。私はむしろ原句のままの方がよいと思いますが、こういうテニオハは充分研究に値すると思います。どうも今回はものを決めてしまわないで、皆さんに考えていただくようなものばかりで恐縮です。

さて最後に選のまねごとみたいなことをして、選句の楽屋裏をお目にかけてみましょう。

徹頭徹尾通したい嘘たまに有り 生 薑

千鳥足口添え巧く嘘を言い 隆 文

嘘の世に阿呆らしい程腹を立て 初 甫

医者にまで嘘をついている赤い爪 敏 子

友情へ嘘の笑顔で別れて来 すみ江

心配をさせないための嘘をかき 村 風 子

さあこの中で一句抜くとすれば、目新しい句想で、表現もよくととのい、そして真実にふれてくるものというような標準でみてゆくのです。目新しいものとい

うのは類句、類想をさけたいからなのですが、十人十色ともいい、同じ人間の考えは似たものであるともいえ、仲々注文通りの句は見つかりそうではありません。表現がどうのといっても、これも文法上の正確さまで追ってはいは句の面白さが消えてしまします。さりとて句主の意を通じさねばなりませんが、それもおろそかに出来ません。真実というところは選者としての心のみがき方で眼が肥え、も、やせもするのですが、そういう点で見ますと、善意、愛情の句ではあっても、すみ江さん、村風子さんの二句は脱落します。それから生薑さんの句は見つけどころは面白くても、理におちすぎているようだし、隆文さんの芝居がすぎているようで真実性がもう一

つです。そこでのこったのが初甫さんと敏子さんと二人とも女性になつてしまいました。ところで初甫さんの「嘘の世に」がどうしても琴線にふれて来ません。きびしすぎて余情にとほしいのでしようか結局敏子さんの赤い爪の句になつてしまふのですが。私の前作に晴着きて医者にはらわたさぐられる

とくらべてみて、この句が虚栄を笑つただけであるのに対して、敏子さんの「赤い爪」は真実を浅はかにもごまかそうとしているおろかさかきめこそかく出ているように思えるのです。

研究題「髪」

切 七月十五日

発表 九月号予定

投句先 豊中市本町三丁目二〇一 戸田古方

和 洋 菓 子

朝 日 堂

大阪南区市電戎橋御堂筋角
TEL (75) 7284

味のこー

モダン 川柳

心斎橋大丸北の辻東へ

御 門

TEL 6684

御集会には階上御利用下さい



衛生

須崎豆秋選

衛生へコツツの咳が気にかかり 秀三
 水虫を掻いてそのまま膳につき 敏明
 優マートの調理場に住む油虫 どんたく
 蠅が出てから衛生がやかましく 豊年
 衛生展今更病氣こわくなり 光郎
 衛生に悪い薬湯で治り 梢月
 蠅もいる蚊もいる衛生課の便所 実男
 耳に垢ためて衛生論をのべ 庸佑
 衛生に悪いが屋台店の味 鶴汀
 三等車豚に見せたらなんと言ふ 虹要
 衛生のためと別居をする不幸 蜻蛉
 無能者を衛生班へ廻わしとき 夜潮
 理髪屋の衛生箱にあるはこり 岳詩
 衛生に気をつけ奇矯でころり死に 恒雄
 衛生を重んじラーメン不味い店 与根一
 シーズンで義理立てる殺虫剤 繁太郎
 衛生薬入れても二代目が育ち 夢路

路

集

野良仕事衛生などと言うとれず 木魚
 衛生のボスターに糞つけて逃げ 九呂平
 どろ掃除からお隣と仲たがい 淀月
 爪に垢ためて衛生口にする 一鶴
 衛生にかかりなくて神の木 七星
 別名は衛生課長掃除好き 南牛史
 蠅の身になれば衛生気にくわす 兼治郎
 保健婦が万年床にけつまずき 宗太郎
 子を一人なくし衛生ばかり言い 隆文
 衛生兵だったと患者文句言い 鹿峰
 衛生が衛生が喉通り兼ね 笑太
 衛生を重んじノイローゼにかかり 雄々
 それ毒のそれ汚ないで肥とられず 吉枝
 たこ焼屋又水ばなが落ちかかり しげお
 衛生のやかましいのが病みつつけ たけお
 お見舞へマスをかけて呉れと言ひ 幽谷
 衛生に悪いわキッス手でふさぎ 甕光
 衛生課につめ涙み取りと言わす 陽子
 衛生家接吻映画きたなかり 恵二朗
 バイキンがみんな見えたらどないやろ 万女
 ごみ箱を漁って別に死にもせず 句念坊

どん底のくらし衛生言うとれず 卯之助
 手を洗うことから習う一年生 生置
 カとハエの事しか知らぬ衛生課 三林坊
 病氣してからの子供が手を洗い 愛鳩
 もと衛生兵とか消毒のことを言う 静水
 衛生は雑誌仕込みの主婦の智恵 慈雨
 衛生も知らず野犬のたくましき 春雄
 衛生は第二腹一杯に喰べ 蘭
 衛生はゼロ長屋の子の元氣 雄声
 衛生に悪いと爪噛む子を叱り 代仕男
 雑布でリング拭く子へあわてたり 敏子
 衛生に触れず爺さん九十過ぎ 古心
 衛生が神経質な子に育て 美音子
 衛生に悪いお店がよくはやり 圭水
 衛生がどうのと肩のこる料理 水堂
 衛生の完備したとこだけ視察 同
 奇麗好き湯屋で洗濯して帰り 狂二
 立小便して衛生班別れたり 同
 父ちゃん手洗いやと子に注意され 保美
 裏側は見せぬ衛生モデル地区 八九寸
 衛生課ひよっこり裏へ廻つて来 一休
 衛生を説いて胃散をのみ続け 無閑
 衛生を余りいうから子が肥えず 旭峯
 人
 退院をした当分は衛生家 十九平
 地
 叱られた時だけ夫手を洗い 宗太郎
 天
 衛生のモデル部落も蚊帳を吊り 藤波
 袖
 指にツバつけて百円札をよみ

靴

黒川紫香選

ハイヒールはいた娘に見下され 鬼美
 バス止めて田舎の靴は威勢よく 笑太
 ハイキング靴を脱がせた青い草 万女
 ブック靴破れすくすく子が育ち 雄々
 靴がまた小さくなったランドセル 保美
 靴の音舗道になったを知っており 与根一
 履いている靴まで停年らしくなり 木魚
 癖のあるその靴が減つて居り 三舟
 急ぎ立てる坊やに靴を揃えられ 七星
 白靴へ雨の団地の隣れ知る 淀月
 母ちゃんも靴で一家のピクニック 水堂
 スパイクと言う靴大地に穴をあけ 南牛史
 皮靴へ中学ジツとしておれず 一鶴
 雨靴が一足たらぬ子沢山 陽子
 ハイヒール郷里の道を聞きながら 恵二朗
 スパイクの紐がピンチに又ゆるみ 宗太郎
 安宿は靴さえ磨いてもくれず 恒雄
 ゴム長で来た職安の冷めたすぎ 無閑
 折角の旅靴それがもの悲し 岳詩
 ブックも履かず高校生となり 蜻蛉
 靴の紐仲居が結ぶ酔払い 定月
 靴脱げばもう大吠えぬようになり 夜潮
 出迎いに靴音は父でなし 一休
 片方の靴が落ちて不気味さよ しげお
 今日こそは職にありつゝ靴を履き 鶴汀
 結構なお身分靴がちびもせず 藤波
 立会演説へ古びた靴で行き 虹要
 靴あところがずっと続いて海に消え 吉枝

新妻の磨いた靴が踏まれまい 参無子
 新婚はうれしいうれしいうれしとき たくお
 足まがレデーモードの靴に合い 狂二
 裏うちの出来ないままに靴のちび 忠三
 新調の靴はラッパシニが気にかかり 真奇
 やはり俺が出なきやならぬ靴をはき 昌男
 靴音を高めて合格帰って来 梢月
 靴音も希望にはずれ新入社 すみ江
 あつらえたように亡父の靴が合い 満秋
 靴履いて歩けばきこえない農夫 実男
 ヒョコヒョコとこうなるハイヒール 庸佑
 税務署へズツクの靴をはいて行き 幽谷
 初出勤母の揃えた靴をはき 豊年
 靴磨き大きな夢を持ち続け 隆夫
 雨靴のやけに重たい五月晴 鹿峰
 退院の靴は廊下をもう走り 初甫
 そいつが俺の靴やと番号札を出し 白葩
 靴屋までよくはきさしたとほめてくれ 弘朗
 ひからびた靴も引越へ乗って行く 睦光
 ごみ捨場みじめな靴が捨ててあり 卯之助
 片方の靴だけ脱いでものをとり 静水
 靴音も気兼ねな見舞の廊下ふむ 愛場
 ルンペンが綱上靴で来る日和 代仕男
 暗がりへ来て痛い靴を脱ぎ 敏子
 新調の白靴満員車で踏まれ 美音子
 今晩はおそくなるよと靴をはき 十九平
 靴の紐むすぶふりしりり過こし 蘭
 特大という靴はいていて弱気 登紀
 あつらえた靴に見事にかまれたり 圭水

五 客

ハイヒール捻挫しそうな道を行き 夢路
 逢いに行く靴と感ずく靴みがき きえ

ママゴトの六六は大きな靴をはき 山椒坊
 ロービートル小柄な彼へ気を配り 圭井堂
 新しい靴を造ればくびになり 幽谷
 靴思い思いに脱いでクラス会 むじな
 式場で派手に鳴る靴もてあまし 登紀
 倦怠期靴はてんでに磨いて出 光郎
 急変へ靴脱ぎばなしにして上り 軸

サラリー

長野井蛙選

サラリーが上りましたと子のたより 万女
 うれしきは親追い越した子のサラリー 白葩
 父よりも高いサラリーマンに嫁き 笑太
 新人社もうサラリーの不平言 狂二
 サラリーと別に縁故と言う強み 圭木
 サラリーを親へ段々出し渋り 愛場
 サラリーを貰うた当座は花も活け 敏子
 サラリーは小遣いでずと娘は勤め 柏月
 恋愛の速度にサラリー追っ付けず 九呂平
 薄給が愛を打ち明けかねさせる 満秋
 恋人のサラリーしつかり聞いておき 恒雄
 サラリーを打ち明ける程恋進み 与根一
 サラリーと別にきちんとした背広 淀月
 見合の時間いたサラリーとは違い むじな
 サラリーの高は仲人口ごもり 無閑
 仲人はサラリー木増して話し 岳詩
 サラリーへファイナンスの夢大過ぎ 七星

サラリーをよせて一緒になる話 保美
 サラリーの合作うれしい設計図 恵二朗
 ストやれぬとこがうめし安サラリー 生薑
 ストすればサラリー上るものとめ さえ
 サラリーは鉢巻のどかさかふえ たくお
 赤旗で食べるサラリー要求し 庸佑
 社のピンチ安サラリーを言うこれ 十九平
 サラリーを妻は厭まで迎えに来 山椒坊
 サラリーを貰ってからと見て通り 初甫
 真直ぐに帰るサラリーひやかされ 圭井堂
 サラリーをふところの道がそれ 夜潮
 月給日家路をはばむネオンの灯 どんたく
 サラリーの封悪友に切らされる 鶴江
 サラリーに相談もなく飲み過ぎ 鬼美
 パチンコへ運ぶサラリーへ汗をかき 虹要
 サラリー日屋台でいもの顔が逢い 睦光
 サラリーのはしなを飲んだよい機嫌 雄声
 サラリーを使い果した二日酔い 雪峰
 昇給は当分ないとピンをはね 昌男
 昇給の分だけそつとピンをはね 三舟
 へそくただけサラリー書き直し 陽子
 サラリーを運ぶ鶴のよに飼育され 参無子
 へそくされてるとは知らずみな渡し 一休
 サラリーの袋の底を見逃がさず 蜻蛉
 サラリーを袋のまんま妻がとり 定月
 サラリーの袋の封は妻が切り 卯之助
 サラリーを妻割り戻すタバコ銭 南牛史
 サラリーへ内職十して平和 兼治郎
 サラリーの不足は持参金で埋め 実男
 今日だけは無いは通らぬ給料日 藤波
 サラリーで足らず公金まで使い たもつ
 サラリーを無視して女房また孕み 一鶴

サラリーの順に宴会席につき 秀三
 サラリーの順に出張年度末 宗太郎
 サラリーの順にアンテナ立つ団地 七星
 焼香の順はサラリーの額が決め 光郎
 サラリーを聞いて不思議な生活なり 木魚
 サラリーの割に豪華な家に住み 南宗
 うけ判にサラリーまでも押えられ 圭井堂
 日帰りで安サラリーは温泉につかり 梢月
 インク消し給料袋に手を加え 虹要
 サラリーが明日出ることにして使い 幽谷

佳

恩給がサラリーあてにせず勤め 旭峯
 サラリーの枠で賄う市場籠 水堂
 勝星がサラリー決める四股を踏み 豊年
 サラリーで建たない笹の家が建ち 光郎
 同様にサラリー男女の差別つけ 雄々
 サラリーの三代続きまだ借家 古心
 月給日かいなと社長判を押し 保美
 共稼ぎしたらサラリー見くら 宗太郎
 サラリーに値札の零が多すぎる 雄々
 サラリーを女半分額へ塗り 実男

人

サラリーに触れず女の齡が上 夢路

地

チケツトの便利がサラリーゼロにする 十九平

天

サラリーの倍はど着てて茶を運び 宗太郎

軸

サラリーの天引貯金は夢を持ち 軸

投句用 柳 箋

一冊(五〇枚綴)三〇円
 送料(二冊分)八円

柳界展望



川維浜寺支部復活川柳句会

五月二十四日夜(会場の一部)

句会

▼恒例本社「川柳まつり」は七月十二日(日)正午から南区心斎橋大丸北ノ辻東五〇米北側の大成園で多彩なプロの下に開催される。この機会に各地の柳人の方々も多

数参加の上御交歓願いたい。▼南区医師会文化部杏林川柳会(大阪市)句会は六月十六日七時半から三休橋南詰中島小児科診療院楼上で開催。▼大阪通信病院川柳会は六月二十七日(土)午後二時から五階会議室で開催。▼コクヨ川柳会(大阪市)は六月十九日(金)午後五時半から黒田国光堂で開催。▼南海電鉄川柳句会(大阪市)は六月二十五日(木)午後六時から難波の親和クラブで開催。▼川維浜寺支部(大阪府)復活句会(五月二十四日午後六時から諏訪ノ森会館で開催。以上路郎主幹出席。▼第五回愛媛川柳研究大会は五月二十四日今治市の黒住教会で開催。▼川維高知支部(高知市)主催川柳大会は七月十二日(日)正午高知中央公民館日本間で開催。兼題厄年・扇風機・正直・夕やけ席題当日三題発表会費百円、後援土佐時報社。▼川維下関

支部(下関市)句会は六月十四日下関駅会議室で開催。▼第四回青森県下川柳大会は六月二十一日午前十時から弘前市西茂森町長勝寺で開催。▼川維合歌支部(倉敷市)句会は六月七日梶原一善居で開催。▼川維岡山支部(岡山市)句会は六月十三日赤岡山支部で開催。▼竹原川柳会主催第二回広島近県川柳大会は九月六日(日)午前十一時から竹原市照連寺で開催。兼題港・神棚・鏡・女優・維



並木会(笠岡市)の人々

向つて右から鉄里・泰山・真寄・滋柳・藤文・遠二・武仙坊 撮影鈍愚坊

▼路郎主幹は六月十五日午後六時から文芸懇談会主催で新大阪ホテルで開かれた英国詩人エドマンド・ブランドン氏の歓迎会へ出席された。▼浪速高等学校(大阪市)文化祭は六月十四日浪速学院で開催。文芸部では麻生路郎川柳特集を設け軸、色紙短冊川柳浴衣を出展、麻生路郎、中島生々庵、堀口堯人、富士野鞍馬、前田伍健、東野大八、森下冬青、高鷲亜純、古川魔花麗、市岡曉舟、築山快夢起北川春葉、須崎豆秋、清水白柳、戸田古方、西尾葉、木谷竹莊、不田一三夫諸氏の肉筆原稿を紹介したが、すこぶる好評であった。路郎主幹は当日親しく参観された。▼須崎豆秋氏(大阪市)から六月十二日、「今朝の新聞でプロペラ船真つ二つという瀬の遭難記事を読んでゾツとしました。あの船は五日前に私達会社の一行が乗

柳家追悼全日本川柳大会兼題慶祝・宝庫・無限・登頂・スボーツ・無事故・夜光石・謎・ジャングル・山彦・姥捨山・メッセージ・憧憬・各題二句以内。投句は七月一日から二十五日まで二百田同封の上山形県萩生局区内飯豊町椿菅野其柳宛。

消息

▼三輪峯田氏(ハワイ)は訪日の旅程を終了六月初旬無事帰布された。▼岩垣日本村氏(大和高田市)は地方版の朝日柳壇の選を担当して居られるが、投句が次第に殖えて来たと同慶に堪えない。▼浜夢助氏(仙台市)は五月三十一日竹駒神社への古稀記念奉題を滞りなく済ませられたと。▼国弘半休氏(山口県)は転勤以来四月厚狭駅々舎の改築と取組み多忙を極めて居られたが、五月十七日落成式を終え新駅舎に移転執務。再び川柳への情熱を燃やす心算との由。「忙しい等と断り状ねつ。い」▼川柳誌「きやある」の主宰者榎田竹林氏(静岡市)の還營を



蝶矢の
ウエスタンシャツ

東京 蝶矢シャツ 大阪

祝福して、不朽洞会員有志は静岡

川柳社から同氏へ贈られる寄せ書の軸へ署名した。▼尼緑之助氏

(出雲市)は六月五、六の両日民生事業視察のため岡山市へ出張。

▼奥谷弘明氏(倉吉市)は六月八日から造林地の測量の仕事で鳥

取県日野郡根雨町坂井原に出張。毎日雨に降り込められ仕事は渉らぬが、川柳作句には好条件であると寄信された。▼福島鉄児、片山

慈雨、越智一男の諸氏は岡山県からはるばる今治市川柳研究大会に

出席、河本南牛史氏(愛媛県)らと同じ列車で松山市を訪問され

た。南牛史氏から豊後期故に少時間、の談話で別れたのが残念であつた。▼中松恒雄氏(加賀市)は

五月二十四日家族連れで長良川の

鵜飼を見物され「遊覧船ひしめく

中を鵜はもぐり」の句信を寄せられた。▼杉本一鶴氏(貝塚市)は

左肺切除手術が不可能となり成形手術に変更六月十二日に施行される。「あばら骨無くなる胸をな

ておき」▼河相すむ氏(西宮市)は六月三日仙台での学会を利用して三十数年ぶりに飯坂温泉に遊ばれた。帰途は松島を遊覧され

ると。▼山根白星氏(東京都)は五月中旬退院目下自宅療養を続けて居られる。▼初代川柳翁の墓のあ

る浅草竜宝寺に川柳会館(仮称無名庵)が建設される。祖翁の像を安置し川柳家の宿泊小集会等に用

いられるものでこの中に川柳文庫が設置されると。

句集

▼前田伍健氏(松山市)の句集

「川柳アイウエオ」が発刊された。(氏の旧作から長野文庫氏(今治市)編集)

▼田中狂二氏(堺市)令圉の母堂

イトさんは五月二十六日午後十二時三十分老衰のため死去された。

年八十五。謹悼。▼鳥取周甫さん(岡山県)の夫君が五月十五日脳

溢血で死去された。哀悼。

転居・改姓

▼武部香林氏(大阪市)は旧宅から南へ百米ばかりの東淀川区三津

屋中通三丁目二〇番地へ転居された。▼松下京一様氏(京都府)は

京都府久世郡城陽町寺田北園地へ転居。▼野村初甫氏(神戸市)は

丸川初甫に改姓された。(薫)

不朽洞

☆常任理事会

六月十三日午後七時から南区三休

橋南詰中島小児科診療院楼上で開催。出席者は生々

庵、葉、古方、春葉、梅里、恒明

紫香、没食子、いわをの諸氏。川柳まつり当日の時間割り作成の

件、川柳まつり委員依頼状作製の

件、景品に関する件、その他を審議十時散会した。(い)

▼津田千舟氏(岸和田市)は家事の都合により不朽洞会を五月限りで退会。

飛・燕・往・来

★橋高薫風子氏(大阪)より

六月号「名句と難句」のうち

「六角堂幾何学的に暮れて行き」

を私は法隆寺の夢殿通称六角堂をイメージに描き長らくそう思い込んでいましたところ、京都頂法寺だと聞いて頭の一部分が空白になった感で、何とも残念な気もし、早速真実の対象を求めて、六月六日京都へ行って見て来ました。正面から見た所は拝殿の屋根など狹雑物がありますが、裏から見ると、六角堂の感じ全しです。幾何学的に暮れて行く所も充分見て来ました。塙が二百羽以上いました。塙をとりまく大人子供、皆善人の顔でした。規模は法隆寺夢殿の優雅に比して壮大、二層になっていて、梁も柱も太く「六角堂幾何学的に暮れて行き」の句の感じは、六角鳥丸の交叉点から丁度東側、第一生命京都支店の基礎工事現場の真上に見えた上層部の光景が、あの句の良さを余すところなく語っています。やがてビル影で、古いものが等しく持つ良さをかくされてしまわれませんが、これも時代なるかなです。華道家元池の坊が堂の裏にありました。

新刊紹介

「大阪我がふるさとの」藤沢恒夫・田村孝之介著が神戸市東灘区御影町柳、中外書房から発行された。価三八〇円。二人とも大阪生れで、文士と画家で名をなした人、こよなく大阪を愛しての執筆だけに大阪人にとっては実に親しみのある書である。

「新川柳鑑賞」は新川柳のよさを

曾て東京の至文堂から拙著「川柳は何か」の姉妹篇だと言えよう。

広く世間に味ってもらいたいため

「川柳の味方」として二百拾八

句を鑑賞したのであるが、本書で

お読み願えれば作句上大いに役立

た。

大正市吉島区四丁西五丁目二五番地

発行所

川柳雑誌社

電話 大阪 〇六八二

振替口座大阪七五〇五〇

価二五〇円 送料三二円

(路郎生)

★本書では現代作家の五百数十句

の名吟佳句が鑑賞されて居り、単

なる読物としても好適のものであ

る。即刻申込ました。

稿を追加した。

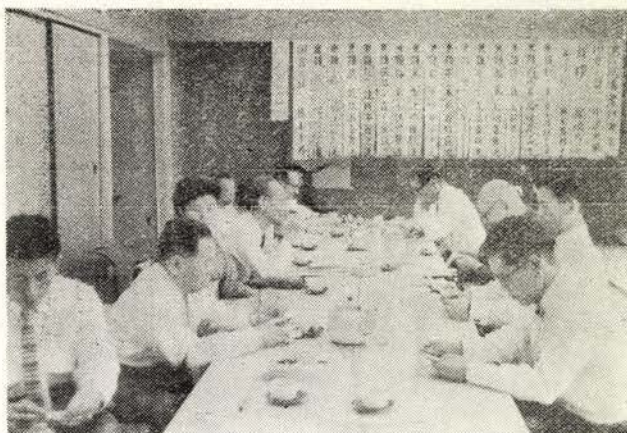
★本書では現代作家の五百数十句

の名吟佳句が鑑賞されて居り、単

なる読物としても好適のものであ

る。即刻申込ました。

稿を追加した。



(奈良 万葉荘)

右手前より
左手前より

藤見・愛論・方正・風船堂・桃村
幸男・竹莊・安子・路郎先生・春里・没食子・竹青

(撮影 史乘)

鳥ヶ辻川柳会

青葉吟行

大阪通信病院鳥ヶ辻川柳会

コンパンはだけで御指名料とられ

バス止めてゆっくり鹿は横断し

奈良の鹿カメラ馴れした顔を寄せ

鹿の影ながながと奈良の街は暮れ

国寶のカメラへ鹿は尻を向け

実盛の心算と出馬頼りなし

湯のまちにきて内風呂に身を沈め

ふるさとへ帰れば五右衛門風呂がたま

チヨイチヨイと秘密もあつて余生

停年が近く余生気にかかり

余生いくばく一億円の寄附を産み

恩給の余生へ孫がたかりに草

病院へゆく日の下着は別に持ち

退職をすれば余生の長き事

夜遊びを叱れば次は泊って来

スリッパのままでタコ焼買に出

脱糞をしてまでたこ焼たべにゆき

秘め事も聞いて婦人科忙しく

秘め事は折灰にして長生きす

路郎

桃村

風船堂

昔の物価

土井文蝶

十年一と昔と言いますから、大分昔の話ですが、明治十年今の大阪駅、その当時の、梅田駅の出来た、時分の用地費が、坪当り十五

銭。それでも、なんと高いもんやと、当時の人が皆吃びっくりしたらしい、駅前など草ぼうぼうで、坪二十銭でも買手が、つかなかつた。

今の大阪駅前なら、坪何十万円もするから、正に何百万倍の値上りになる。明治十年と、言うると西暦で、米の値の高い時分、米一石九百七十銭、麦三四七十銭、二十年頃には一寸米が安くなつて米一石八四九十銭、麦四四八十三銭、酒八四八十三銭、醤油八四六十四銭、今なら酒一合二級で五十円程度だから、雲泥の差である。三十年米一石十一円五十五銭、麦七四五銭。酒二五四四十銭、米十五四、醤油二五四四十銭、酒三十七四五十銭。砂糖百斤十六四九十銭と物価も安かつたが、労賃も安い。明治三十年頃の労働者の日当は米二升程度位だった。散髪屋の出来たのが、明治十四年頃で、料金は散髪十銭ヒゲツリが四銭、市民の足だった人力車が、河内古市まで三十三銭郡山六十三銭、奈良まで七十五銭、京都五条へ一四五十銭と、ペラ棒に安かつた。その当時は人口も少なかったから、暮しよかつたに違いない。明治二十二年四月一日大阪市の総人口四十七万人、東西南北の区が今では、二十二区三百万近い人口に、ふくれ上つたのだから、うかうかして居ると落伍してしまふ結果になる。こんな事を書いて居ると頭が古いと叱られるかも知れんが、これも懐古趣味でしようか。(僕の覚え書より)

川柳まつり

川雑踊りの歌

須崎豆秋 作詞
若柳吉艶重 振付
丸尾潮花 指導

(一) 路郎先生の誕生日

ヨイヨイ
歳を召すたび若くなる
川柳祭だ よいとさのさ
手拍子そろえて踊ろうよ
サノヨイヨイ

(二)

ヨイヨイ
月が出た出た月が出た
不朽洞から月が出た
あんまりお月さんが
でかいので
サノヨイヨイ

(三)

ヨイヨイ
一句出た出た一句出た
ぎよっとするよな
句が出来た
あんまり選者が辛いので
天かと思たら没だった
サノヨイヨイ

五月の三十日、今では例年の行事となった青葉句会を仏教の古都奈良へと吟行した。

昭和十七年六月に初句会をして以来路郎先生の御指導よろしく鳥ヶ辻川柳会も今では満十七才を迎えるようになった。ふりかえって見ると地味な歩みを続けて来たグループでもある。青葉吟行の初めはたしか空襲のはげしくなる頃、近鉄沿線鶴邑に吟行し、路郎先生と一日寝ころんで作句したのもつい最近のような気がする。

奈良は西暦七二〇年から七八年

まで日本の首都でもあった所で今はその当時よりだいぶん東に位置した町である。

さわやかな空に美しい屋根と屋根の薨の線を交錯させ飛鳥、天平時代の貴重な古美術を沢山描き出すのも奈良の横顔でもある。

若草山の山麓万葉荘で路郎先生のいつものながらのユーモア味をまじえた柳話を拝聴しながら、作句三昧にピールの壘を抜くのをしぼし忘れるほどで名句、迷句が続出。暮色のおとずれる頃鹿の影をふみふみ古都を後にした。

(小沢史乘記)



投稿規定
▼用紙は原稿用紙▼文字は正
確▼締切毎月十五日▼投稿先
本社宛

本社 六月旬会 (大阪市)

6月8日 午後6時
会場——文楽座別館四階

夜の道頓堀は大阪人の郷愁である。川面にうつるネオンの美しさはたまらない魅力だ。

この四階会場の左前方が真ッ量間のように明るいの、バの黄金カードである南海・西鉄のナイターである。そこには首位攻防の球趣があふれているであろうが、サテこちらは、六月の不朽洞賞杯を追い、来月の優勝杯を狙って脚趣いよいよ高まるのである。

チーム・ワークを語るわが川維旬会はず好郎氏の柳話からフレイ・ボール。駿足鬼と鈍足鬼の、あの童話から氏独特の柳舌に乗せて、満場を魅了しつつうち、本客選者が披露の第一陣をうけたまわって登場する。

毎月初出席の新しい雅号を耳にすることはかきりないよろこびであるが、古い人たちのもどろシシ出席ねがいたいものである。

不朽洞賞杯を賭けた最後の一句こそ、よろこびの曲り角であり、また泣きどころではあるが、金泉万葉氏が六月のヒー

ローとなる。

(F)

出席者・路郎・一三天・潮花・華宵・与呂志・旅風・いわを・狂二・一乃字・舟遊・保美・満秋・太路・たけし・ゆたか・文蝶・晃・堀子・南宗・牧人・清子・栗・三司・梅里・徹也・水堂・静馬・薫風子・水客・文秋・白溪子・一十・好郎・紫香・恒明・いさむ・淡舟・井平・素郎・梅志・昌男・武助・一栄・多久志・六童子・貴山・万葉・庸佑・柳宏子・女・生々庵・半歩・白柳・水断・す・む・高史・葉乙女・阿茶・光輪・宏子・霞乃

兼題「菓子折」 土井文蝶選

菓子折の中身汚職を催促し 雅堂
菓子折がほろろ米さな職に付き 敏明
菓子折の中は知らない花名刺 八九寸
菓子折が茶の間に値踏されて開き 夢路
世話すきの妻に菓子折また届き 美路
迷惑な洋菓子折のことづかり 蘭志
御無沙汰も菓子折一つでけりかつき 昌男
菓子折が団地の谷を迷うて来 南宗
菓子折が番地をさがす進 多志
菓子折を抱え世馴れた勝手口 旅風
菓子折へキラリ子供眼が光る 晃
上れとは言わず菓子折だけはいけ すすむ
課長宅菓子折提げてカチ合わせ 一三天
菓子折へ責任のない地位にいる 水客
菓子折に女特任の地位にいる 静馬
まだ去ぬぬのに菓子折へ行く 阿茶
菓子折に日附があつて気が狂い 静平
水くさい菓子折も菓子折取つておき 昌男
馬を射る菓子折持ち帰り 素郎
菓子折と見たか懐が細く開き 太路
菓子折という事にして貰つとき 生々庵
そつと仕打ちに菓子折出しとくれ

引菓子の中に花嫁うわさされ 宏子
菓子折をまんなかに折れ合わず 薫風子
菓子折でノをイエスにしてくる 旅風
菓子折に添えて元金かえしに米 舟遊
胸ボンと叩き菓子折突き返し 万葉
正直に菓子折だけで礼に米 好郎
ひと肌をぬがせる菓子折の折届き 堀子
菓子折の中味祕書だけ知っている 一三天
三人も囁んで菓子折三つもち 梅志
本引をすらすらと菓子折につか たけし
菓子折へ担任ほんとの言えす 万葉
預っておく菓子折は脹があり 文蝶
菓子折は世帯の足しにならず消え

兼題「袖カパー」 西いわを選

窓口にいて親切な袖カパー 牧人
袖カパーみんな中村君に見え 一三天
袖カパー飯粒つけてしやべりに来 堀子
食堂で気配あけてる袖カパー 晃
袖カパーきつちりつけて悪妻家 清子
ビジネスへ割切る恋の袖カパー 三司
判を押すだけに課長の袖カパー 昌男
父来てと税吏を捌く袖カパー 隆史
袖カパー皆んな仕事の顔になり 女
社長室袖カパーまるめノックする ゆたか
麻雀に御山らしい袖カパー 晃
袖カパーの窓上上の隅へ寄り 一栄
見事なものにベッキ屋の袖カパー 白柳
採用の一つ先輩の袖カパー 舟遊
振り切っている新婚の袖カパー 水堂
袖カパー帳簿のミスを知って居り 清子
袖カパー残業をするうづんが来 紫香
面会へ袖カパーの落ちつゝか 牧人
出世する夢に遠く袖カパー 栄
ネクタイを派手にむすぶ袖カパー 栄
定年を気にしていない袖カパー 栄
呼出しの電話聞いている袖カパー 栄
袖カパーサラサラの汗が必み 栄

兼題「ほろくそ」 後藤梅志選

ほろくそに言われる周脈があり 生
ほろくそに怒鳴って血圧また計り 一栄
ほろくそにやり合い仲よく落選し 生々庵
ほろくそに言つて別れる気なとき 満秋
ほろくそに言われつつ放して妻は老け 一三天
ほろくそに言うは人前だけのこ 圭井堂
片親をほろくそに言う子に育ち 水客
ほろくそに言うてもピンと来ぬ男 恒明
ほろくそに言われ暮す小さい母 半歩
ほろくそに言うたけつと紹介し 阿茶
ほろくそに言うたけつと腕がたち 庸佑
十台大凡香具師ほろくそにこきおこ たけし
ほろくそにいわれ値切られ約手なり 好郎
ほろくそに言うて債権置き寝入り 静馬
ほろくそに言うて動まる椅子におり 宏子
ほろくそに言うて動まる椅子におり 庸佑
ほろくそに言われて弱い小商人 梅里
ほろくそに言われて家内に先立たれ 牧人
ほろくそに言われて髪立つ潮なし 栄
ほろくそに言われて夜店で売れるも 栄
ほろくそに言われて医者とうまく合 保美
ほろくそに言われて一人前になり 水客
ほろくそに言われて一人前になり 淡舟

世にな言葉で出世祝われる
 文
 出世したのに父もなく母もなく
 東洋男
 出世して妻のきりやうが氣に入らず
 若菜
 出世してはいしと思ふ鯉のぼり
 句念坊
 錦着て帰れば駅が小さ過ぎ
 六童子
 もらい子と云われたくなく鯉のぼり
 香林

にしなり支部句会（大阪市）

後藤梅志選

夜店灯少し離れて売るホテル
 孫の手にはたる光ったまゝおと
 はたる狩りおきなゝい恋が芽はえかけ
 螢狩り離ればなれになる 二人
 洗い髪インドネシアのようになり
 洗い髪包みは洗面器らしい
 洗い髪いま物干は雨の音
 洗い髪つかえて妻が出迎える
 何を釣る柳の下まぬけ顔
 柳青し旅のつばめの宙がえり
 踏切りを越えて柳の不気味なり
 春雨に柳さらさら音を立て
 柳一本目印に書く転居地図
 両の手はポケットにあり柳散る
 柳の芽窓に目葉さす女
 歯医者の子笑はる虫歯一つ見え
 容赦なく抜かれた虫歯貰らって米
 虫歯まだ甘い味覚を断ち切れず
 奥歯もう虫に任して髪白う
 虫歯から元の甘える子に
 また春もくるだる逆境に生き
 沈む陽へ心引かれる不倖
 逆境に馴れたか妻もよく動き
 逆境の目に銀行の厚い壁
 逆境へ遠のいてゆくおとりまさ
 逆境にて風呂好きの父を持ち
 洗い髪男うっかり踏む長さ
 梅志

文風
 旅風
 牧人
 敏子
 満秋
 文久
 寸々
 舟遊
 白柳
 鶴汀
 柳宏子
 葉平
 三司
 蘭
 花宵
 迷
 六竜子
 保美
 三舟
 小松園
 清人
 柳志
 阿茶
 薰風子
 梅志

彌
 備前支部句会（岡山県）

京都支部句会（京都市）

田中烏雀報
チッほけな野郎となつて橋渡る 晴芽

本社句会全出席者

・ 与呂志・文蝶・旅風・い
 さむ・一三夫・狂二・満秋
 ・ いわを・多久志・庸佑・
 ・ 舟遊・保美・潮花・半歩・
 ・ 柳宏子・紫香・すゝむ・董
 ・ 風子・梅志・阿茶・牧人・
 ・ 静鳥・腰子・葉乙女・葵舟
 ・ 白柳・文秋

大阪・名古屋・伊勢を結ぶ大動脈
近鉄特急ダイヤ

大阪上本町発	近鉄名古屋発	宇治山田発
7.40	8.00	8.40
・ 8.40	9.00	9.40
9.40	10.00	
11.40	12.00	・ 12.40
13.40	14.00	14.40
・ 15.40	16.00	16.40
17.40	18.00	・ 18.40
18.40	19.00	
19.40	20.00	20.40

上本町 9.40 18.40 名古屋 10.00 19.00 発
はお楽で便利な新設特急 ご愛乗下さい
・印は二階展望室つきピスタ・カー

座席指定特急券 5日前から発売
近畿日本ツーリスト 交通公社 始発始発

近畿日本鉄道

何もかも譲る封筒封をする 司郎
同封と書いて入ってない封筒 烏雀
封筒を押したいだいて入社通知 親生
笑耳の笑いを分析してるなり 美佐緒
中毒のそばづえ食った犬の欲 極堂
予想覆える面白さの中に いる 子
あとで来た一人に話くつがえり 九角
今週も出張ですかすこしやき

川 篠山支部句会（兵庫県）

小西無鬼選

天氣者昨日と違う 肩を組み可住
知らせとけ後がうるさい天氣者 枝葉
天氣者近所の子供まで此り 永断
天氣者今宵珍芸見せてくれ 岳詩
天氣者どんな拍子か貸してくれ 秋月
天氣者突然旅に出ると言う 無鬼
天氣者酸いも甘いも忘れおり 黙翁
慰めてくれたお方が天氣者 越山
月並に暮らしているに高足らず 澄代
月並みな挨拶をする齡となり まさ子
月並みの事で断るすべもなし ゆたか
月並みなコースを避けて遭難し 左文字
月並みな小言敷が泣くほどに聞き みのる
月並みの生活へテレビ振り向かせ 凡志

月並みを破る悩みのふけが落ち ひか平
倉敷支部句会 (倉敷市)

相原二善報

女房の抵抗 辛い お味 噌汁 万 古 大
わが家にも憲法が有り締出され 一 善
交骨のおやじで通す 味の店 麗 水
もう一度言つてとらんと向き直り 銀 子
後輩の手前勇気を出して見せ 素身郎
悪友は悪友らしい知恵を貸し 狂 風
週刊誌の知識で時局を批判する 伶 坊
先客の席をとつて 週刊誌 治 たら 飲めと悪友提げて来る
あの勇気 微塵も見えぬ四十暮れ 隆 文
勇気出し声かけてみて後の出ず 一 舜
向く方へまかせなさいと妻は言い 三 吉
憲法を無視する人に支配され 春 也
クイズ解くだけに週刊誌を漁り 美音子
週刊誌下車する時は忘れられ ゆき子

西宮支部句会 (西宮市)

菱田満秋報

うっかりと貰めたら女房つけあがり 一 傘
うっかりと出たを刑事は見逃がさず 庸 佑
うっかりと嫁のことが孫にもれ 祥 珍
うっかりとして上役のわびはすみ 敬 太
同伴は支関先で茶を出され 青 児
鯛一匹ともかく嬉しい膳にする 友 美
おこられる手前メニッは横目で見 甘 歩
三十になつても息子いたわれ 夢 路
同伴できて同伴をすき見する 夢 路
うっかりと貰めれば横でんとする 夢 路
二級酒に釣り合う鯛を買うてく 夢 路
鯛の目が好き末っ子はまさせて 夢 路
魚屋に生れて鯛もようたべず 夢 路
一苦勞する気大学受けさせる 夢 路
子の貴状親はみんなに見せながら 夢 路
親ごころ若い希望とくいちがひ 夢 路

メニッ廻して女連気が変り 蘇 堂
常連のメニッは要らぬハハハ 修 児
同伴の噂ライバル気にしだし 天 路
同伴が暫く人目を意識する 寿 栄
うっかりと手出しは出来ぬ子に育て 砂 天
当選の夜は犬にも鯛の骨 舟 遊
連れている老婦いたわのみにとれ 満 秋
代つてもやれずうろうろ 親 心 牧 人
親の眼にそんな阿呆と思われず 多 久 志

弓削支部句会 (岡山県)

直原七面山選

どん底を笑えるまでに立ち直り 竜 児
どん底の生活ひがんでみたくなり 賤 女
どん底の星できれいなことを知り 山茶花
山羊の背を紅く燃やしている日暮 知 恵 美
許嫁美しすぎて 氣を使い 喜 楽
どん底の底をはたいて宝くじ 銀 子
どん底へ明日をいぶかる旅仕度 たつよ
子に夢を託してどん底はい廻り 南 欽
若草に座ればあちこち鹿の 糞 句 念 坊
若草へ張り切っている山羊の 綱 ちとせ
若草の丘母ちゃんも跳んでみる 竜 児
喘ぎ行く馬車が絵となる日暮時 山茶花
どん底に落ちたと見えぬ紅の色 喜 楽
若草に足を延ばした松葉杖 賤 女
妹へよろめいて来た許嫁 知 恵 美
許嫁喧嘩した日を笑い合 ちとせ
どん底から這い上る氣の貯金帳 七面山

木次支部句会 (島根県)

藤井明則報

ミッチーにあやかりた結婚し 房 子
結婚が決つたらしい 三 通 話 可 明
旅籠子に取巻かれ靴を脱ぎ 白 潮
家出までして結婚にこぎつける 雄 々
血圧は高し子供は喰い盛り 四郎丸

家出して旅の一座へ名を連れ 幸 夫
櫻土堤噂通りの仲が行き 舟 帆
一年間貯めて二泊の旅を組み 多 郎
住宅離婚約だけはしたものの 鶴 丸
血圧が借金額まで子に教え 佳 男
血圧を薬で下げて酒で上げ 正 喜
豊作が血圧よけい高くする 佳 仙

小松支部句会 (小松市)

伊藤茶仏報

お隣りの大隈名で縛られる 一 進
匿名の援助うすうす娘が感じ 宗 太 郎
頼杖をつく暗算に恋があり 茶 の 香
手伝いに来た娘喋って日が暮れる 光 威 智
手伝いにうろたふく 苦 勞 さん 吉 枝
江戸城の広さを知った奉仕隊 生 風
男手をすまなく借りる新世帯 若 浪
お手伝いだけはしますと 財 源 君 坊
受付は才媛才女の 婦 人 会 きみ子
せめても旧友の地位呼びする 千太郎

高知支部句会 (高知市)

大西迷窓選

あれだけの土地があるのに転勤し 省 吉
転勤は少し肩書かえてくれ 蟬 蛇
転勤の近い机に落ちつけ 古 城
大阪に出て食道楽の血に染り 寛 木
道楽を消めにお天理様へゆき 如 太
三十の道楽母を手こずらせ 夢 太 郎
退官の余生趣味のコレクション 柳 翠
自転車急げば三日月も急ぎ 翠 川
三日月へ入試の母子手を合せ 俊 一 郎
白髪を抜かせて母は居眠りし 春 子
配達がおしめの下を抜ける露路 醉 蜜
新婚はいつの間にも抜けて去に 直 喜
ずば抜けているのは背の高さだけ 幸 窓
歯が抜けていて笑うと躊躇する 迷 窓

大聖寺支部句会 (加賀市)

野村味平選

スタンプを押して窓口につけなし 醉 羊
スタンプを押して見物の列になり 素 白 々
局の朝スタンプの音高く 澄 美
見舞状かいてるとこへ計報が来 美 代
お見舞に行つたぐらい 味 平

明和病院支部句会 (西宮市)

西尾青一路報

やつとでばランスとれた年度末 泰 榮
バランスがとれた会社に老いてい 泰 榮
予算だけしつかりバランス取れて 球 絵
決算期バランスとれて茶をする 英 路
ジャレマに落ちて酒量が増えて来た 半 歩
頭痛膏とって 帰宅を待つ 鏡 正 一
ジレンマーにかかると男なり 正 一
長男の夫に合せる 鏡 正 一
肩の低いとも似合の夫婦なり 三 舟
頭痛膏はつて指図に 姑 起 き 弦 月
ジレンマのままで不惑とうに過ぎ 策 平
肥つちまがバランスとれた声を出し 東 雲
太あたりして老婆の旅馴れず 蕨 風 子
接待の旅で手形が気にかかり さとし

事務用品専門店
事務用・文具・器機・什器
株式 心斎橋クニヤ
心斎橋北詰
店 心 斎 橋 北 詰
電 (25) 4740-1
阪神店 阪神百貨店五階
電 (36) 1201

出張の一日すした湯につかり
旅の子の語にふれる夕の膳
旅からの便りふい父よ夫
齒ラシ一本無銭旅行が帰って来
ワシヤツの汚れ氣にして旅つく
親切がこわいと思う一人旅
川維明和研究会(西宮市)

樋口舟遊報

驚の落第へのどかなり
落第という現実を咬みしめる
落第は覚悟でサボルクラスに居
落第の味なめた子の精勵さ
大失態でさあ落第あきらめる
跡継ぎが柱へペンキぬりたくり
産声に揃っているかと聞いてお
跡継ぎのない老夫婦ためて居り
跡継ぎがまたその上のけちんぼう
むすかゆし跡つぎはそれそうに
跡継ぎの線の細さが案じられ
道草が影の長さに慌てて居
ビル影落ちて静かな街になり
面影がどこか似ているバーで
鳥籠の影でとろとろねむくなり
プランコの影お母さんで伸びる
棺桶はまだおいてない百貨店
買わせる知恵をデパートしり出し
真打の踊りお茶子も来て座り
さきかけの服同窓会でうらやま
先駆けが見えて小旗の波がゆれ
さきかけて売出し新聞種にする
跡継ぎの家梅が咲き桃がなり

杏林川柳会(大阪市)

麻生路郎選
生々庵
沈黙で時間を稼ぐ倦怠期
同

沈黙を守って罪人出ずにすみ
時代のズレで息子のカカハ
エンジンの音がとまれば淋しがり
徴税へものほしそうな小役人
チンジャラチンジャラ隣近所の身にもなれ
沈黙のうちに諷刺の手を握り
騒音の真只中の若乃花
騒音に近い音色で三味をひき
ささやかなレジスタンスに沈黙し
三ッ下の唸阿訛がまだとれず
下ッ端はさういふことで事足り
風流気なうて河鹿をうるさがり
騒音をこれ幸と一仕事
あべこべに下ッ端共に指揮をされ
騒音は強いが顔と手で話す
山越えのえらさだまて歩く列
下ッ端へ一寸借りてくサッリ前
騒音の中で旦那の小唄すみ
下ッ端の酒くせ笑ってすまされ

南海電鐵川柳会(大阪市)

辻圭水報

方言を聞いて益かわし合い
方言を嫁ぎ先まで持って行き
とばかり借金取りも逃げて行き
お招伴と言うよい方とばかり
せつちが寄りも寄つたりミナル
夕暮れに恋人も待つタミミナル
方言を旨く使つて親しまれ
タミミナル人口過剰を意図する
タミミナル募金に一つ呉れて過ぎ
春がきて衣袋くらべのタミミナル
タミミナル二人ささく場所さがし
方言をまねて司会者よろこばれ
タミミナルボストナかな見付からず
タミミナルここぞ別れるコヒシ
タミミナル日蓮宗へ眼もくれず

333川柳会(堺市)

川村好郎報

映画より横の別離気にかかり
別離を嫁に貰うて飯を炊き
絞出すように鏡子を逆に持ち
子沢山卵に豆腐まぜて焼き
べっぴんにならば孫の鼻を褒め
別離をやつても集金断られ
バケツまで持つて来たら二尾
ゆで卵の湯気程熱くなくし
賽銭に未練あるのかぞき込み
また元のこのほに市市予算
勤めても売上帖は残しとき

帝化川柳会(大阪市)

佐野白水報

窓ガラス割つて喧嘩はみんな逃げ
窓の棧へ追われて蠅の小休止
気安さは窓から声をかけてくる
年頃は派手に玄關出入りする
父一人年頃の娘を持て余し
思い出の一つ一つにある笑い
思い出は軍国酒場で酔いつぶれ
思い出の種切れお通夜寝るとする
思い出の街都市計画にのっかり
用心棒というお顔で飲んで去に
仲人に十人並の顔にされ
顔はも見えなくテブ手に残り

羽曳野句会(羽曳野市)

川村好郎選

雀二羽仲よくベッドの子を見舞い
寝てる身へ春の日曜晴れ渡り
よこれもの土産も母は嬉しそう
肥えましてと回診うれしそう
入社試験難関直の顔ばかり
奥様にお似合ですと買わされる

血も涙もないのか朝の妻
ランドセル買つて子の夢の夢
妻ノロは僕だけでなし面会日
玄關に出るにも娘ひまが要り
退院と決れば療養ひまが要り
桜ひらひらアベック気が付かず
手土産は取られ借金断られ
密旅行土産買のをつい忘れ
恋人の母の好みの土産買
故里の香りもつたこの土産
出張の証しに土地の土産買
肥えてきた此の顔母へいい土産
たけるべ川柳会(岡山県)

野々口美舟報

まぜ返すだけの議員で四年すぎ
押えてる虫がひたいに青く浮き
まぜ返す子へ斗病の眼をつむり
なびくすべ知らず淋く散る
まぜ返すつもり酒をぐぐ飲み
家だけがもれてた隣の内祝
退院をナース淋しい瞳で送り
反対を押えてさめた茶をすすり
家裁近行つてまあまあ押えられ
感激の涙押えるほど溢れ

鮎と料理と酒

アベノ橋地下映画食通街

千日前 大劇裏

梅里の店

大萬

★大万川柳(第百一回)を募集
兼題「板垣」 路郎先生選
締切・七月十五日
発表・七月廿一日
授旬は 阿倍野区松崎町三丁目
一〇 大万川柳会宛

所題時 26日(日)六時 川柳雑誌社支部 近道・夏休み・台所 諏訪ノ森会館 (南海本線諏訪駅一丁北)	所題時 23日(木)六時半 沿線・花火・宿題 難波高架下 親和クラブ	所題時 7日(火)六時 内緒・顔・郷愁 堺市九間町山ノ口八木摩太郎居	所題時 19日(日)六時 息子・紫煙・夕立 西成区玉出新町通一ノ一一 後藤梅志居	所題時 333句会 18日(土)六時 快談・階段・怪談 堺市老松町三丁 島野工業KK	所題時 22日(水)六時 コマーシャル・歩巾・重宝 旭町二丁目 金塚会館	所題時 10日(金)七時 溜息・反応・セロテープ 市電玉造南百米 大阪信用金庫	所題時 5日(日)一時 蟻・ウイニング・七夕 西宮市鳴尾町 新明和興業KK	所題時 淀川句会 3日(金)六時 波・度胸・博士 十三西之町五丁目東淀川郵便局
所題時 11日(土)六時 旅・味・箸・うどん・覚悟 横山一声居	所題時 12日(日)一時 婦人会・裸・扇子 米子市公会堂 日本間	所題時 12日(日)一時 倉敷句会 涼み台・ささやき・うつかり・跳足 倉敷市水島弥生町四ノ三 榎原一善居	所題時 11日(土)四時 仏・凄艶・百 四糸縄手 仲源寺	所題時 17日(金)六時 娘・川風・けちんぼ 阪神西宮駅北スグ西宮労働会館	所題時 19日(日)一時 宇部句会 もの好き・パラソル・電話 港町国鉄職員会館	所題時 25日(土)六時 高知句会 勝負・名残・尊厳・シーズン 高知市追手筋湖月 川竹松風居	所題時 月・月・月 言いつ・親心・予約 岡山県久米郡久米南町下弓削 四五四 直原七面山居	所題時 26日(日)六時 川柳雑誌社支部 近道・夏休み・台所 諏訪ノ森会館 (南海本線諏訪駅一丁北)

・ ペンの散歩 ・

▼先生の机上に、梨里夫人と一歩氏の勢、ちゃんの写真がときどきおかれてある。トデモ可愛いご様子だ。「大きくなつたらう」と、目を細められる。お孫さんたちも、いいお祖父さんをもっとおしあわせである。

▼いよいよ川柳まつりである。本年は一般からも参加できるので優勝権を追って大激戦が予想される。胸がどるではないか。先生の御誕生日を祝って、われわれ門下生が捧げる句の花束に栄光あれ。

▼古句研究家として知られた阿達義雄氏から久々の快筆を得た。本誌以外には柳筆をとられない東野大八氏には毎号頭が下がる。ありがたい。

▼「新川柳鑑賞」刊行には先生が直接印刷所まで出張され、校正に進行に大車輪である。ほくには雑誌があるのでとうとうお手伝いできずじまいになってしまった。

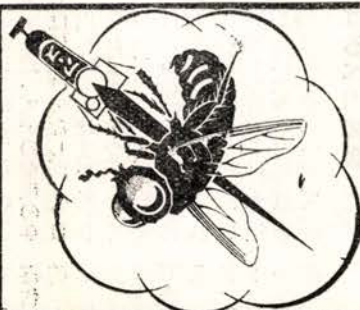
▼うだる暑さに突入した。先生は、水好きのほくに、あまりガブガブやると健康に注意してください。毎年のことではあるが、人様がうだっている間隙にウンと書いて、非力なカバーしてきた。今更もやれるだ

募るを告廣舞見中暑交人柳

川柳雑誌社

八月号へあなたの暑中見舞廣告を
★一口金二百円。幾口でも申込んでください。
★一口分の原稿は住所と姓と雅号程度。活字指定はおまかせ願います。
★一口分は五分の一段組三行。
★原稿締切は七月五日霜便
★広告料は前金のこと(郵券代用でもよろしい)

(一三三)



す早い効き目! よい匂い!

安全殺虫剤

旅行・登山等御携帯に
自噴式罐入

アースエアゾール



木村製薬

K.C TEx

ケー・シー・テックス



株式会社越田商店

本社 大阪市東区東町四丁目 TEL 06-4573-6 番
 東京支店 東京都千代田区神田豊島町四番地 TEL 03-786 番
 一宮支店 一ノ宮市花岡通り二丁目 TEL 078 3919

食品と原資材・機械・包装の総合誌

食品と科学

7月号 100円

特集

菓子今後の方向は………花田信次郎
 菓子工場は七万あるが
 全国銘菓ベスト・テン………守 安 正

展望台

主農食・木産・畜産・油脂 酒類・飲料・香料
 焙煎・加工・調味食 強化剤・包装・機械

健康は食物から………水谷竹荘
 食品香料の種類と特長………小畑繁雄
 ★海外ニュース ★特許ニュース

食品原資材相場表

本誌の購読は近くの書店で御予約になるか
 または直接弊社へ御申込み下さい。

大阪・生 食品と科学社 東京支店
 本編五五五 大阪支店 6702 番
 大阪65231番 東京69305番 名古屋60009番

何を選んでいただくか
 は先様におねがいして
 タカシマヤの商品券を
 お贈りするのにも心
 くい贈物かと存じます
 一〇〇円から
 一〇〇〇〇円迄
 大阪・東京・京都
 3店に共通です
 高島屋
 大阪・東京・京都
 高島屋

海へ寺

二色の浜 助 松
 高師の浜 磯の浦
 電車バスとも大増発運転

南海電車



printed in Japan

(禁導録)
 昭和三十四年六月廿五日印刷
 昭和三十四年七月一日発行
 大阪府市西局区内月代西五丁目二番地
 発行所 川柳雑誌社
 大阪府市西局区内月代西五丁目二番地
 電話 大阪 六〇八一
 本誌代金 七五〇五〇

B列5号 毎月一回一日発行
 川柳雑誌 三十四年
 第七号
 定価 六〇円
 (送料四円)

▼▼▼
 投稿規定
 投稿は各種必ず別紙に認め、住所氏
 名雅号を明記する事
 「近作柳」は一級作家の雅号を募
 る
 「課題吟」は誰でも投稿が出来る。
 「川柳塔」の投稿は不納会員に限
 る。

募 集
 課題吟募集
 冷蔵庫 (十句以内) 菊沢 小松園選
 汗庫 (十句以内) 正木 水客選
 倉庫 (十句以内) 国弘 半休選
 モデル (十句以内) 川村 好郎選
 近作柳 (十句以内) 北川 春郎選
 文柳塔 (十句以内) 麻生 路郎選
 章 (評論・研究・感想其他) (毎月十五日締切)
 毎号募集
 近作柳 (十句以内) 麻生 路郎選
 文柳塔 (十句以内) 北川 春郎選
 章 (評論・研究・感想其他) (毎月十五日締切)

昭和廿二年七月一日 第三種郵便物認可
昭和三十四年七月一日発行（毎月一回日発行）

編集人 幸田印典

監事 幸田二郎 発行所 川柳雑誌社

大阪市住吉区西成五丁目二番五号 電話（大阪）六〇八一

大阪市住吉区西成五丁目二番五号 電話（大阪）六〇八一

大阪市住吉区西成五丁目二番五号 電話（大阪）六〇八一

定価六十円（送料別）

水虫の専門薬



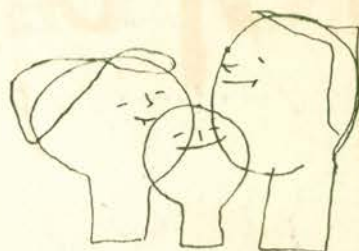
水虫には、断然御好評をいただいているアルバー！ 乾いた水虫には液、湿った水虫には粉末、両方に使える軟膏！ 3種で水虫の立体治療を！

アルバー



東京・大阪 山之内製薬株式会社 福岡・札幌

一家そろってホーライ党



廣東料理



大阪なんば・TEL ④551—2

洋酒の素屋

幸福の足音...



1杯のトリスが1日の疲れをなおし明日への活力を生みだす。

明るく^{しあわ}幸せな毎日……

トリスのグラスの中からいつも幸福の足音がひびいてくる。

サントリー純粋品

トリスウイスキー

徳用大瓶 330円・ポケット瓶 120円